

# 西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告

1995

財団法人 東大阪市文化財協会

# 西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告

1995

財団法人 東大阪市文化財協会

## はじめに

第二版奈有料自動車道路は、大阪都心部と奈良県北部を最短距離で結ぶとともに関西国際空港や関西文化学術研究都市へのアクセス道路として計画されました。

この新道路の建設予定地内には、全国的にも著名な鬼虎川遺跡・西ノ辻遺跡・神並遺跡が所在しております。財団法人東大阪市文化財協会では、建設予定内において失われる埋蔵文化財を記録保存するため、昭和63年度から継続して発掘調査を実施してまいりました。今回の西ノ辻遺跡第30次調査では、中世および弥生時代の集落跡や同期の遺物を多量に検出し、貴重な成果を挙げることができました。本書が東大阪市の歴史を解明してゆく上での一助となれば幸いです。

最後に、現地調査および資料整理にあたり、ご尽力いただいた大阪府道路公社をはじめとする関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成7年3月

財団法人 東大阪市文化財協会

## 例　　言

1. 本書は、平成2年度に実施した、第2阪奈有料道路建設工事に伴う西ノ辻遺跡第30次発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査ならびに資料整理は、財団法人文化財協会が大阪府道路公社の委託をうけて実施した。
3. 現地調査は、平成2年6月13日から平成2年10月31日まで、資料整理を平成5年4月1日から平成7年3月31日まで実施した。
4. 調査・整理は以下の事務局体制のもとに進めた。(平成6年7月末日現在)

理事長　　清水行雄

常務理事　西脇實

事務局長　杉山浩三

調査部長　原田修(東大阪市教育委員会文化財課主幹)

調査副部長　松田順一郎

調査部員　上野節子

庶務部長　吉川正光(東大阪市教育委員会文化財課主幹)

庶務部員　大林寧　朝田直実　村田周亮

調査担当　中西克宏

調査補助　東倉利樹　中村真　岡野明美　米田正雄　松坂誠二　猪田弘美　田中美由紀  
石割珠貴　伊藤美樹　中村里美　永井佐都子　西村慶子　八田美代子

5. 本書は、中西がI～IV・VIの執筆・編集、Vをパリノサーヴェイ株式会社が執筆した。
6. 遺構写真は、中西が撮影した。また遺物写真は、スタジオG.F.プロに委託して撮影した。
7. 人骨については、現地において大阪市立大学医学部解剖学第2講座、多賀谷昭氏に鑑定していただいた。
8. 遺構平面図は、航空写真測量によっており、関西航測株式会社に委託した。
9. 現地の土色および土器・土製品の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人色彩研究所監修の『新版標準土色帖』に準拠した。
10. 現地調査の実施にあたっては、大阪府道路公社、第2阪奈有料道路作業所(第1工区)、安西工業株式会社の方々にご協力いただいた。記して御礼申し上げます。

# 本文目次

## はしがき

## 例言

I 調査に至る経過	1
II 西ノ辻遺跡の位置と環境	1
III 調査の方法	4
IV 調査の成果	5
1 層序	5
2 遺構と遺物	5
1) 近世以降の遺構	5
2) 室町時代から鎌倉時代の遺構と遺物	11
3) 古墳時代の遺構と遺物	26
4) 弥生時代の遺構と遺物	26
V 木製品の樹種同定	32
VI まとめ	36

# 挿図目次

第1図 西ノ辻遺跡周辺の遺跡分布図	2
第2図 調査地点位置図	4
第3図 調査地区の基準ライン設定図	4
第4図 北壁断面実測図(西半部)	6
第5図 北壁断面実測図(東半部)	7
第6図 近世以降の遺構実測図	8
第7図 中世から古墳時代の遺構実測図	9
第8図 井戸1実測図	12
第9図 井戸1出土遺物実測図	13
第10図 井戸2実測図	14
第11図 井戸3実測図	15
第12図 井戸3・5・6・7、土壤墓1、土壤1出土遺物実測図	16
第13図 井戸4実測図	17
第14図 井戸5実測図	18
第15図 西ノ辻遺跡の井戸検出手面計測図	20
第16図 西ノ辻遺跡の井戸底面計測図	20
第17図 土壇1実測図	21

第18図 土壌墓1実測図	22
第19図 西ノ辻遺跡の中世墓分布図	23
第20図 溝1・6・13、Pit出土遺物	24
第21図 土壌17実測図	26
第22図 弥生時代の遺構実測図	27
第23図 落ち込み1実測図	29
第24図 溝20・21、落ち込み1出土遺物実測図	30
第25図 土壌7・8・9・16、第9層出土遺物実測図	31
第26図 第9層出土遺物実測図	32

## 表 目 次

第1表 西ノ辻遺跡の調査一覧表	3
第2表 西ノ辻遺跡の中世井戸計測値一覧表	19
第3表 西ノ辻遺跡周辺の中世墓一覧表	23
第4表 根石一覧表	25
第5表 出土材の樹種同定結果一覧表	34
第6表 西ノ辻遺跡30次調査遺構一覧表	37
第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表	46

## 図 版 目 次

図版1 遺構	1. 近代以降の段に伴う杭列検出状況（西より） 2. 北壁東端部分断面
図版2 遺構	1. 近世遺構検出状況（南より） 2. 近世溝検出状況（西より）
図版3 遺構	1. 中世から古墳時代遺構検出状況（西より） 2. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区西寄り部分）
図版4 遺構	1. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区中央寄り部分） 2. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区東寄り部分）
図版5 遺構	1. 井戸1東西断面 2. 井戸1検出状況
図版6 遺構	1. 井戸4遺物出土状況 2. 井戸5東西断面
図版7 遺構	1. 井戸5立割り状況（南東方向） 2. 井戸2立割り状況（東西方向）

- 図版8 遺構 1. 溝1・3検出状況（南より）  
2. 土壌1検出状況（南より）
- 図版9 遺構 1. 土壌墓1・井戸6・井戸7検出状況（南より）  
2. 土壌墓1人骨出土状況
- 図版10 遺構 1. 土壌墓1人骨出土状況  
2. 土壌墓1人骨出土状況
- 図版11 遺構 1. Pit61根石検出状況  
2. Pit26根石検出状況
- 図版12 遺構 1. Pit169根石検出状況  
2. Pit169立割り状況
- 図版13 遺構 1. 弥生時代遺構検出状況（西より）  
2. 溝20・溝21検出状況（南より）
- 図版14 遺構 1. 溝20・溝21検出状況（南より）  
2. 溝21検出状況（南より）
- 図版15 遺構 1. 溝20検出状況（南より）  
2. 溝20東西断面
- 図版16 遺構 1. 落込み1検出状況（南より）  
2. 落込み1土器出土状況
- 図版17 遺構 1. 落込み1土器出土状況  
2. 土壌17土器出土状況
- 図版18 遺物 井戸1出土遺物
- 図版19 遺物 井戸1出土遺物
- 図版20 遺物 井戸1出土遺物
- 図版21 遺物 井戸2出土遺物
- 図版22 遺物 井戸3・井戸6・井戸7・土壌墓1出土遺物
- 図版23 遺物 井戸5・井戸7・土壌1出土遺物
- 図版24 遺物 溝1・溝6・溝13出土遺物
- 図版25 遺物 Pit49・Pit51・Pit72・Pit83・Pit125出土遺物
- 図版26 遺物 溝20・溝21・落込み1出土遺物
- 図版27 遺物 落込み1・土壌17出土遺物
- 図版28 遺物 近世溝・第9層出土遺物
- 図版29 遺物 樹種顕微鏡写真
- 図版30 遺物 樹種顕微鏡写真

## I 調査に至る経過

近年、大阪府や奈良県北部地域の開発に伴い自動車交通量の増加が著しい。大阪府道路公社と奈良県道路公社は、大阪都心部と奈良県北部地域を短時間で結ぶとともに、阪神高速道路や近畿自動車道と連絡し、広域的な道路網を形成するために、国道308号線のバイパスとして、東大阪市西石切町を起点とし、奈良市宝来町を終点とする13.4kmの第二阪奈有料自動車道路の建設を計画した。この計画では、有料自動車道路のうち、大阪外環状線以東の部分が、近畿日本鉄道東大阪線とほぼ平行し、鬼虎川遺跡・西ノ辻遺跡・神並遺跡のなかを東西に横断している。これらの3遺跡では、これまでの発掘調査によって、縄文時代から室町時代の遺構・遺物の存在することが十分に予想された。このため東大阪市教育委員会は、道路建設工事に先立って発掘調査を必要とする見解を大阪府道路公社に提示した。その後、大阪府道路公社と東大阪市教育委員会文化財課で協議を重ねた結果、道路建設予定地内の埋蔵文化財の発掘調査を順次実施することになった。

発掘調査は、大阪府道路公社からの委託をうけた、財団法人東大阪市文化財協会が昭和63年度に神並遺跡第13次発掘調査、平成元年度に西ノ辻遺跡第27次発掘調査、鬼虎川遺跡第32次発掘調査、平成2年度に鬼虎川遺跡第32次発掘調査、西ノ辻遺跡第30次発掘調査、西ノ辻遺跡第32次発掘調査、神並遺跡第14次発掘調査、平成3年度に鬼虎川遺跡第33次発掘調査、西ノ辻遺跡第32次発掘調査、神並遺跡第14次発掘調査、平成4年度に鬼虎川遺跡第33次発掘調査、西ノ辻遺跡第33次・35次発掘調査、神並遺跡第14次発掘調査を実施している。

## II 位置と環境

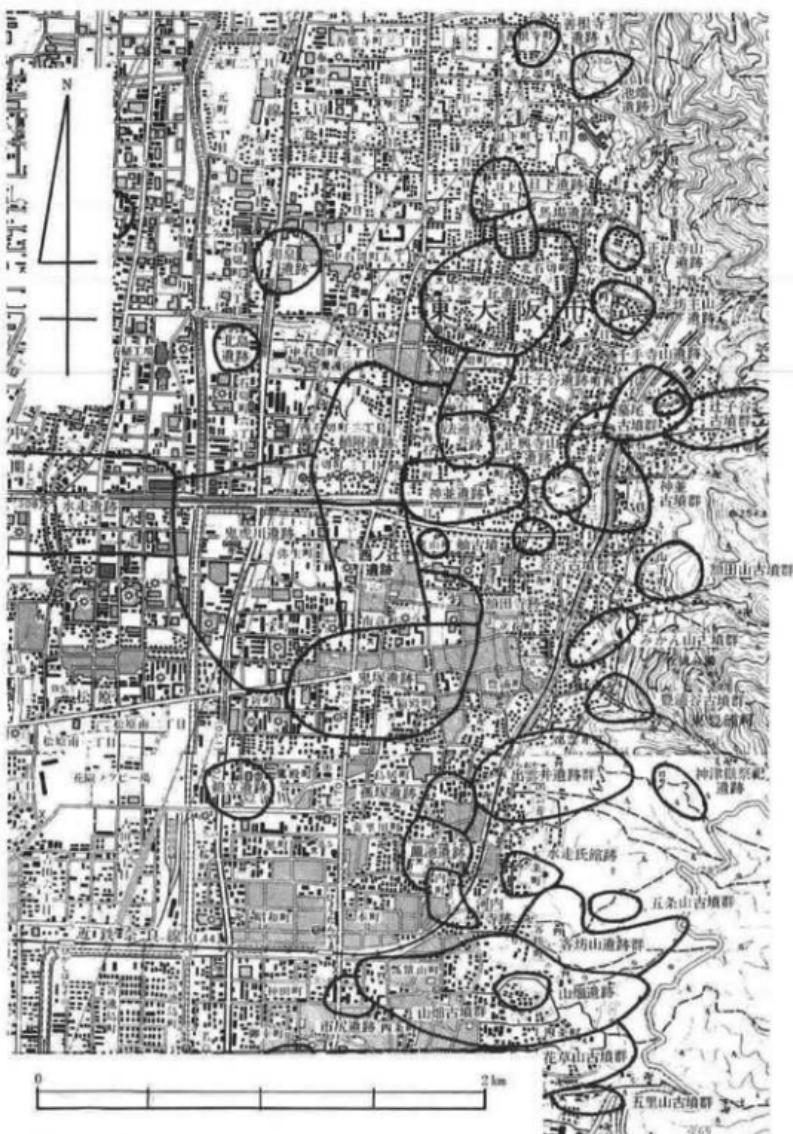
西ノ辻遺跡は生駒山西麓部、標高7~20mの扇状地上に立地し、行政区画では、東大阪市東山町・弥生町・西石切町3丁目にかけて所在する。

西ノ辻遺跡第30次発掘調査地点は、本遺跡の推定範囲に西端部分、鬼虎川遺跡と接する地点にあたる標高約7m付近である。地籍では東大阪市西石切町3丁目地内にあたる。

西ノ辻遺跡は、昭和16年に発見されて以来京都大学や大阪府教育委員会、東大阪市遺跡保護調査会・財団法人東大阪市文化財協会などによって発掘調査がおこなわれてきている。このうち、昭和16年・17年の京都大学小林行雄氏のA~N地点の調査では、各地点で様式のことなる弥生時代中期から後期の土器が出土し、これをもとに弥生時代中期から後期の土器編年を組んでいる。このことが西ノ辻遺跡を学史上著名なものにしている。以後の発掘調査の概要は、第1表を参照していただきたい。

本遺跡の周辺には、旧石器時代から室町時代にいたる多くの遺跡が分布している。

旧石器時代の遺跡には、ナイフ形石器が採集されている千手寺山遺跡・正興寺山遺跡がある。縄文時代の遺跡は、早期の神並遺跡・前期の海岸線の一部を確認している鬼虎川遺跡・後期から晩期の日下遺跡や鬼塚遺跡・芝ヶ丘遺跡などが分布している。弥生時代の遺跡は、本遺跡のほか神並遺跡・鬼虎川遺跡・植附遺跡・芝ヶ丘遺跡・鬼塚遺跡など多くの遺跡がある。古墳時



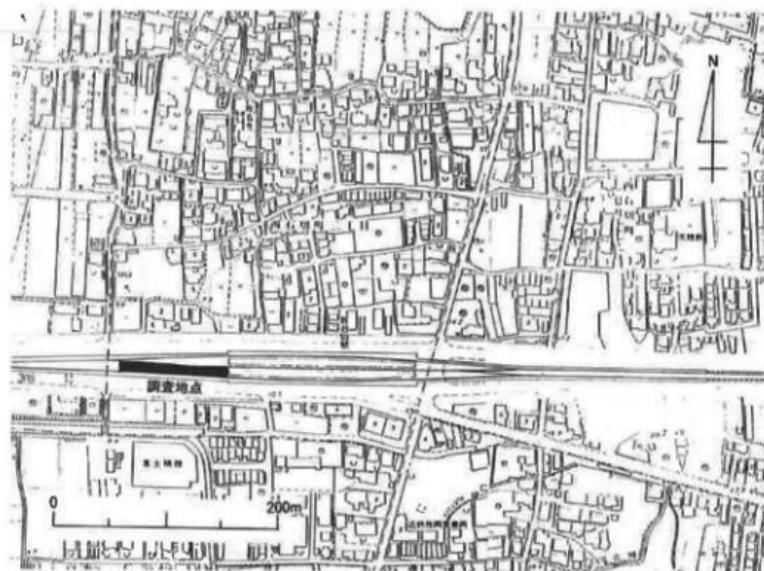
第1図 西ノ辻遺跡周辺の遺跡分布図

第1表 西ノ辻遺跡の調査一覧表

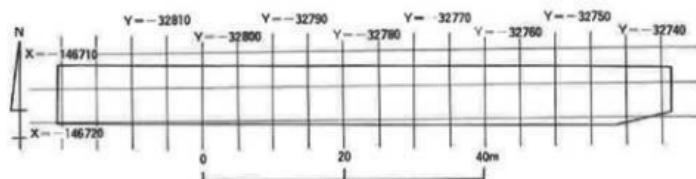
代には、神並遺跡・鬼虎川遺跡・植附遺跡などで集落跡を検出しているほか、後期の神並古墳群も分布している。歴史時代には、法通寺・河内寺などの寺院のほか、鬼虎川遺跡・神並遺跡・植附遺跡などで集落跡を検出している。

### III 調査の方法

発掘調査は、道路建設予定地内のうちの東西約85m、南北約8.4mの710m<sup>2</sup>を対象とした。調査区内のうち、現道路と平行する調査区南壁および東西壁側は、鋼矢板を打設して調査をすすめた。調査の手順は当初、現道路の盛土・耕土・床土さらに埋設管付設部分を機械によって掘削し、以下の層位を人力によって掘削した。次に各堆積層の上面で遺構検出をおこない、遺構の確認できた場合、写真撮影と実測図を作成した。調査区内の測量は、既述したように周辺の発掘調査で検出されている遺構との整合性をはかるため、国家座標を移設し、これに沿った基



第2図 調査地点位置図



第3図 調査地区の基準ライン設定図

準ラインを設定した。調査地区内は、原則として基準ラインによって囲まれる5m区画に分割した。なお、遺構図は、このラインを基準に作成している。調査地区内の堆積土層観察用のアゼは、基準ラインに沿って20m間隔で南北方向に3箇所設定した。そして東側から順にA地区、B地区、C地区と仮称した。

西ノ辻遺跡第30次発掘調査地点の周囲は、東側が西ノ辻遺跡第9次発掘調査区、西側が西ノ辻遺跡第35次発掘調査区、南側が鬼虎川遺跡第18次発掘調査区・西ノ辻遺跡第7・8次発掘調査区、北側が鬼虎川遺跡第23次発掘調査区であり、すでに本調査地区的西側を除く部分の調査が完了している。このため、今回の第30次発掘調査では、これらの既調査で確認している遺構とのつながりを明確にすることが一つの課題といえる。

#### IV 調査の成果

西ノ辻遺跡第30次調査地区は、後述するように既に著しく削平され、遺物包含層がまったく残存していない。このため、遺構はすべて地山の上面で確認している。また、調査地区内の南側は、東西方向に水道管や下水道管が埋設されており広範囲に搅乱されている。したがって、検出できた遺構の多くは、調査区の北寄り部分に分布している。しかし、調査区南寄り部分からも井戸・溝などの深く掘り込まれた遺構を検出していることや本調査区の南側で既に実施している鬼虎川遺跡第18次調査・西ノ辻遺跡第7・8次調査区で多くの遺構を確認していることから、本来は、調査区南寄り部分にも北寄り部分同様に多数の遺構が存在していたものと推定できる。調査区西端部分は、近代以降の段によって大きく削り取られているため、遺構をまったく確認することができなかった。

検出できた遺構の時期は、各遺構の重複関係や出土遺物から近世以降・室町時代から鎌倉時代・古墳時代・弥生時代に大別できる。これらのうち室町時代以前の遺構について遺構一覧表を作成したので各々のデータは第6表を参照していただきたい。また、出土遺物のうち図化したもののは遺物観察表を参照して頂きたい(第7表)。以下では、層序の説明の後、時期毎に遺構と出土遺物の記述をすすめてゆくことにする。

##### 1. 層序

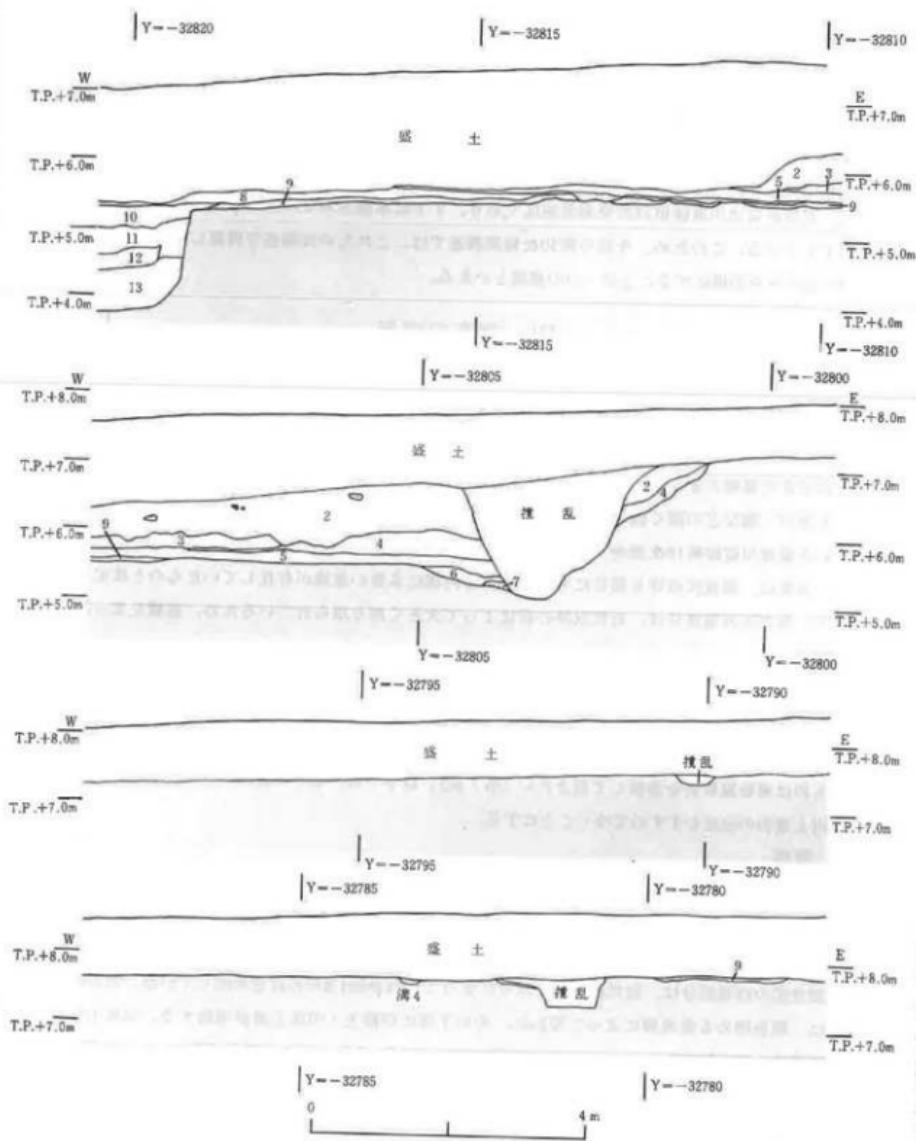
調査地区は、全面現道路の中央分離帯内にあたる。盛土を機械によって除去すると、調査区西端部分を除いて地山を検出した。したがって第30次調査地区は、調査前に既に著しく削平されていたものと推測できる。このため、遺物包含層は、まったく確認できなかった。

調査区の西端部分は、近代以降の土取りによって比高差約1.6mの段を形成している。段の部分は、段を埋める整地層によって覆われ、その下部に旧耕土・旧床土層が堆積する。旧床土層の下部は、地山層である。

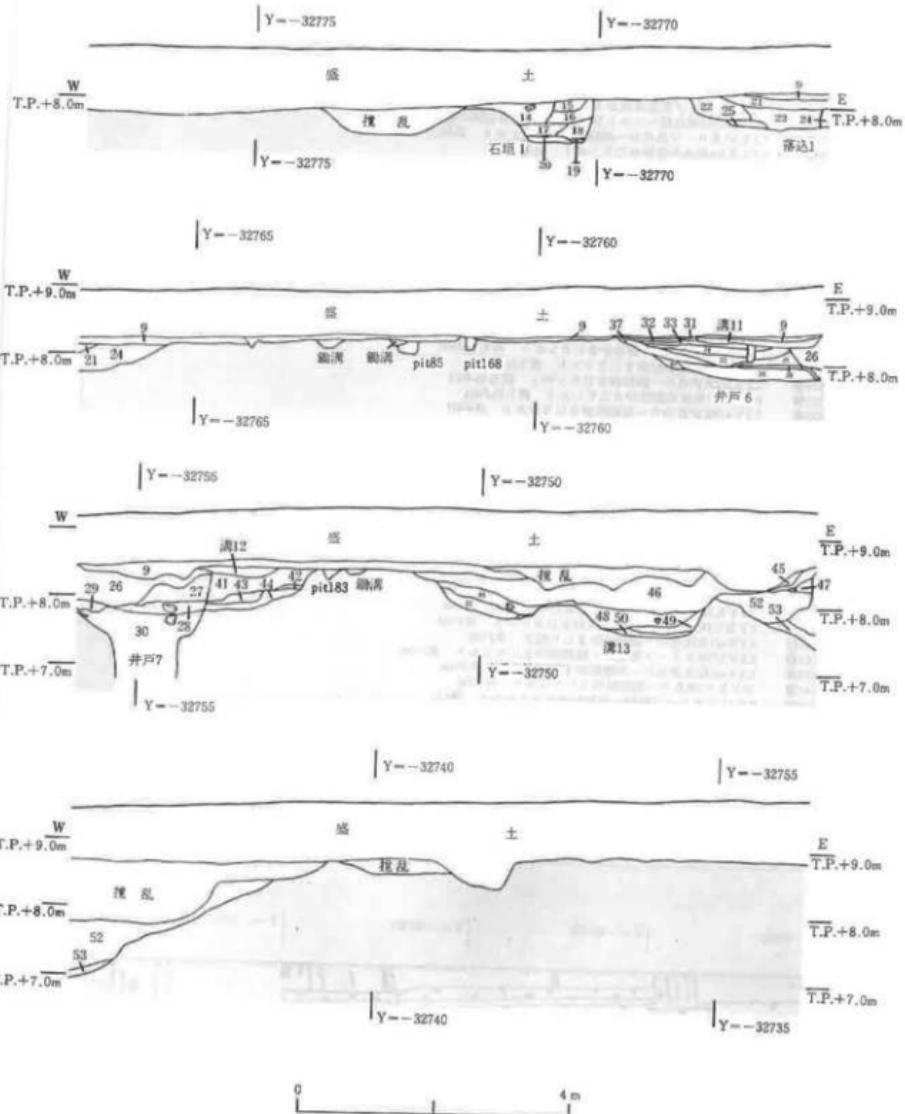
##### 2. 遺構と遺物

###### 1) 近世以降の遺構

近世の遺構は、第30次調査区の中央から東寄りで確認している南北方向の溝11条がある。溝



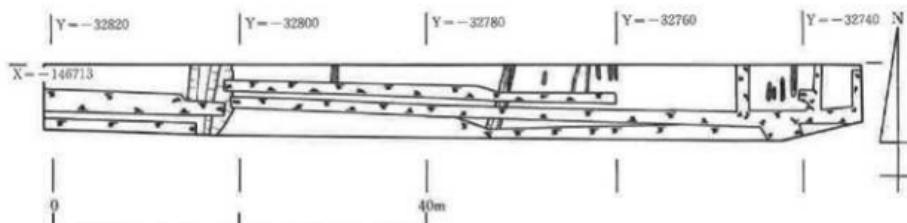
第4図 北壁断面図(西半部)



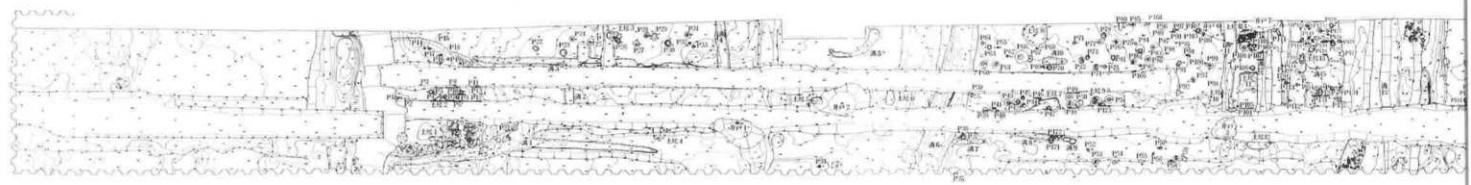
第5図 北壁断面図(東半部)

西ノ辻遺跡第30次調査区北壁断面層名

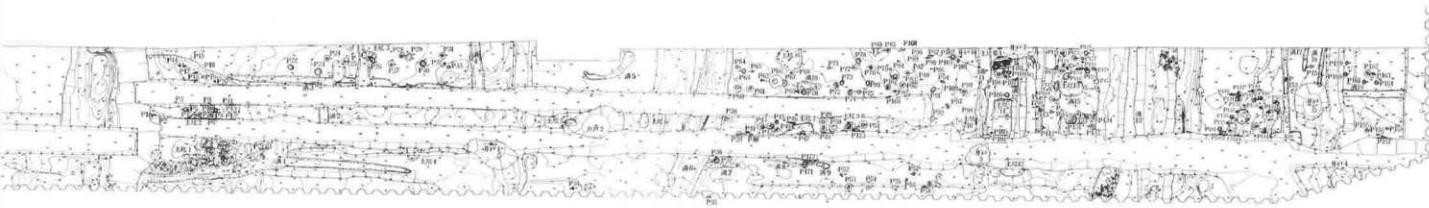
第1層	粘土
第2層	10Y R 4/6褐色粗~中粒砂まじりシルト 近世以降の整地層
第3層	10Y R 4/2灰黃褐色粗~中粒砂まじりシルト 近世以降の整地層
第4層	2.5Y 4/2暗灰色粗~中粒砂まじりシルト 近世以降の整地層
第5層	2.5Y 3/2褐色粗~中粒砂まじりシルト 近世以降の整地層
第6層	10Y 4/2オリーブ褐色粗~中粒砂まじりシルト 近世以降の整地層
第7層	10Y R 3/2黒褐色粗~シルトまじり粘土 近世以降の整地層
第8層	7.5Y 3/1オリーブ褐色粗~中粒砂まじりシルト 旧耕土
第9層	7.5Y R 7/6褐色中粒砂まじりシルト 旧耕土
第10層	5Y 3/1オリーブ褐色粗~細粒砂まじりシルト 段の埋土
第11層	5Y 2/1褐色中~シルトまじり粘土 段の埋土
第12層	2.5G Y 2/1褐色シルト~粘土 段の埋土
第13層	10Y 3/1オリーブ黒色シルト~粘土 段の埋土
第14層	2.5Y 5/3黒褐色中粒砂まじりシルト 石垣01
第15層	10Y R 4/3にぶい黃褐色粗~中粒砂まじりシルト 石垣01
第16層	10Y R 4/4褐色粗~中粒砂まじりシルト 石垣01
第17層	10Y R 4/2灰黃褐色粗~中粒砂まじりシルト~粘土 石垣01
第18層	10Y R 4/1褐色粗~中粒砂まじりシルト 石垣01
第19層	2.5Y 4/1黄褐色シルト~粘土 石垣01
第20層	2.5Y 4/1黄褐色シルト 石垣01
第21層	10Y R 4/1褐色粗~中粒砂まじりシルト 落ち込み01
第22層	10Y R 5/1褐色粗~中粒砂まじりシルト 落ち込み01
第23層	2.5Y 5/1黄褐色粗~中粒砂まじりシルト 落ち込み01
第24層	2.5Y 5/1黄褐色中~細粒砂まじりシルト 落ち込み01
第25層	2.5Y 4/1褐色粗~中粒砂まじりシルト 落ち込み01
第26層	2.5Y 4/2灰褐色中~細粒砂まじりシルト 井戸07
第27層	2.5Y 3/2黒褐色中~細粒砂まじりシルト 井戸07
第28層	2.5Y 4/1黄褐色粗~中粒砂まじりシルト 井戸07
第29層	5Y 3/1オリーブ褐色大塊まじりシルト 井戸07
第30層	2.5Y 4/1黄褐色中~細粒砂まじりシルト 井戸07
第31層	2.5Y 4/1黄褐色シルトまじり細粒~中粒砂 粘土 井戸06
第32層	2.5Y 4/2褐色粗~中粒砂まじりシルト 井戸06
第33層	7.5Y R 2/2黒褐色中~細粒砂まじりシルト 井戸06
第34層	5Y R 3/1褐色粗~中粒砂まじりシルト 井戸06
第35層	7.5Y R 3/2黒褐色シルトまじり細~中粒砂 粘土 井戸06
第36層	7.5Y R 3/2黒褐色シルトまじり細~中粒砂 粘土 井戸06
第37層	7.5Y R 2/2黒褐色シルトまじり細~中粒砂 粘土 井戸06
第38層	10Y R 4/1褐色粗~中粒砂まじりシルト 井戸06
第39層	7.5Y R 2/2黒褐色中~細粒砂まじりシルト 井戸06
第40層	5Y R 3/2赤褐色中~細粒砂まじりシルト 井戸06
第41層	2.5Y 4/1黄褐色中~細粒砂まじり粘土 井戸06
第42層	2.5Y 3/2暗オリーブ褐色中~細粒砂まじりシルト 井戸06
第43層	2.5Y 4/2暗褐色中~細粒砂まじりシルト 井戸06
第44層	10Y R 4/4褐色中~細粒砂まじりシルト 井戸06
第45層	3Y 4/2褐色シルト~中粒砂まじりシルト 溝13
第46層	2.5Y 3/2暗褐色中~細粒砂まじりシルト 溝13
第47層	10Y R 3/4暗褐色中~細粒砂まじりシルト 溝13
第48層	10Y R 3/3暗褐色中~細粒砂まじりシルト 溝13
第49層	2.5Y 3/2黒褐色中~細粒砂まじりシルト 溝13
第50層	5Y 3/1オリーブ黒色シルト~粘土 溝13
第51層	2.5Y 2/1褐色中~細粒砂まじりシルト 溝20
第52層	2.5Y 3/2黒褐色粗~細粒砂まじりシルト 溝20
第53層	5Y 3/1オリーブ黒色シルト~粘土 溝20



第6図 近世以降の遺構実測図



第7図 中世～古墳時代の遺構実測図 ( $S = 1/200$ )



第7図 中世～古墳時代の遺構実測図 ( $S = 1/200$ )

-9・10-

は小規模なもので、埋土からみて耕作に伴う鋤溝と推測できる。調査区中央部分にある溝の東肩部分には馬頭大の石が一列分残存するものもある。

## 2) 室町時代から鎌倉時代の遺構と遺物

室町時代から鎌倉時代の遺構には、調査区の西寄り部分を除く全城の地山上面から検出した井戸・溝・Pit・土壤・土壤墓がある。同期の遺構は、本調査で最も多く検出できた。以下では、遺構毎に記述をすすめてゆく。

### 井戸

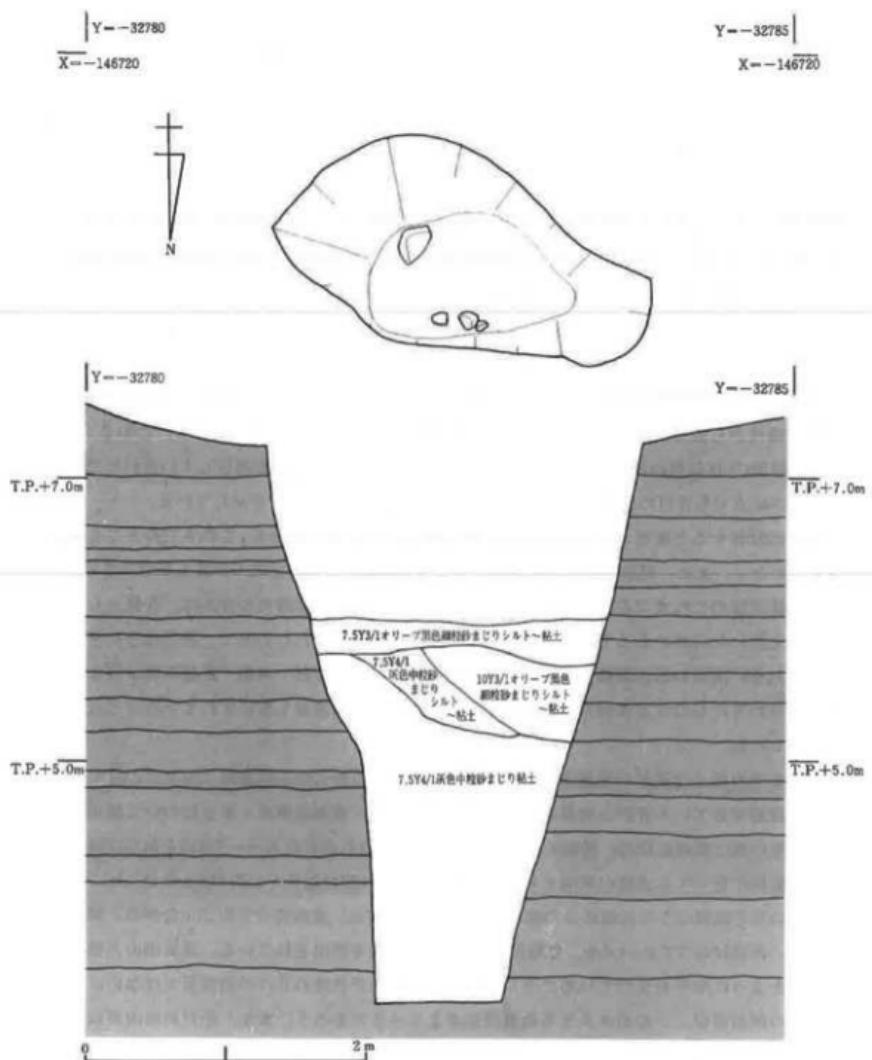
井戸は、調査区中央から東寄り部分で7基検出している。7基のうち調査区端部分に接する3基(井戸4・6・7)は、底面まで確認できなかつたかったが残り4基(井戸1・2・3・5)は、人力および機械掘削によって底面まで確認した。井戸底面まで確認できた4基の井戸はいずれも素掘りである。井戸1・2・3・6・7は埋土内から土器類をはじめ瓦類・木製品など多種多量の遺物が出土しているのに対し井戸4・5からの出土遺物は極めて少ない。なお、井戸6・7および土壤墓1は当初それぞれの重複関係を確認できず、同一遺構として掘削していた。このため遺物については、3者が混同してしまった。しかし、その後の北壁断面の観察によって井戸6→井戸7→土壤墓1の順に変遷することが確認できた。

室町時代から鎌倉時代の井戸は、西ノ辻遺跡の全域に散在的に分布している。このことは、地下の状態(中世以前の埋積谷の存在や地山)によって井戸の開削地点を選択しているわけではなく、どの地点でも井戸の掘削が可能で地下水を得ることができたことを示している。

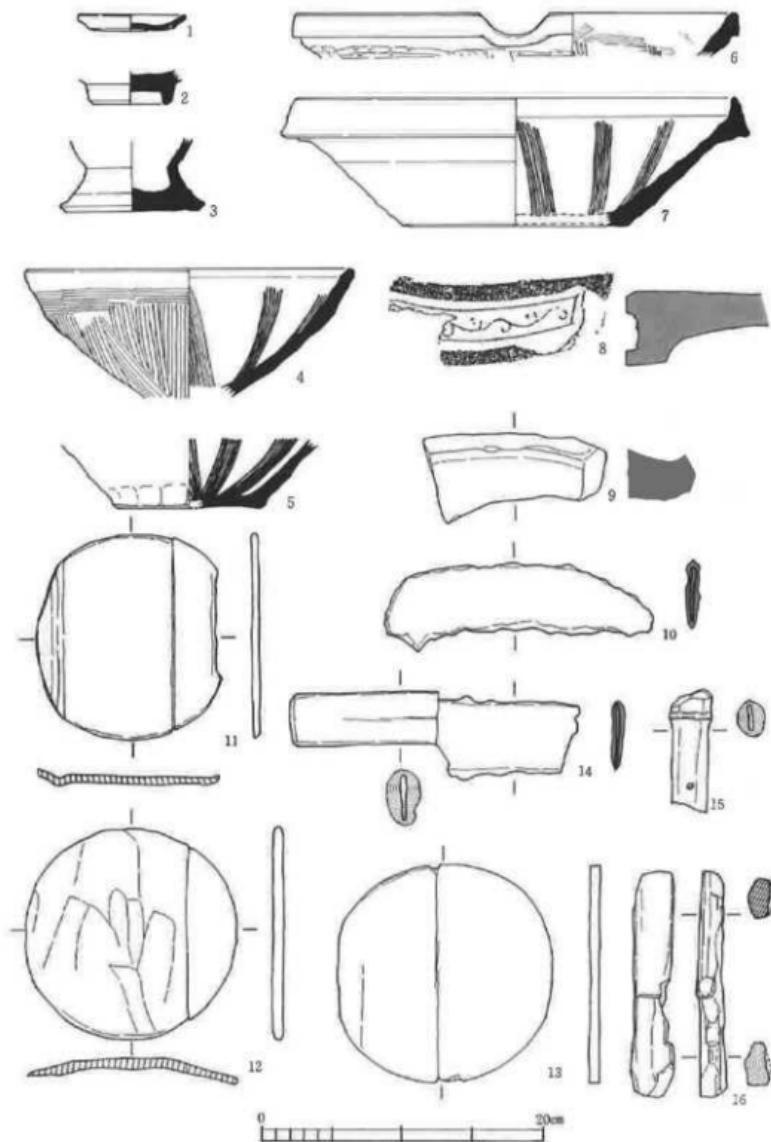
井戸に付随すると推定される覆屋や水の汲上施設などの地上施設は、これまでのところ確認されていない。また、屋敷地内の建物配置および井戸の配置と数などについても不明である。

西ノ辻遺跡のこれまでの調査で確認している室町時代から鎌倉時代の井戸は、井筒として曲物を据え置いた痕跡のあるものや石組の構造のものが数例知られるのみで、そのほとんどは素掘りである。同期の若江遺跡では、曲物・土師器釜・桶側・石組・木組・瓦積みおよびこれらを組み合わせたものなど各種のものが知られ、これらの変遷過程も推定されているのと大きく異なる。

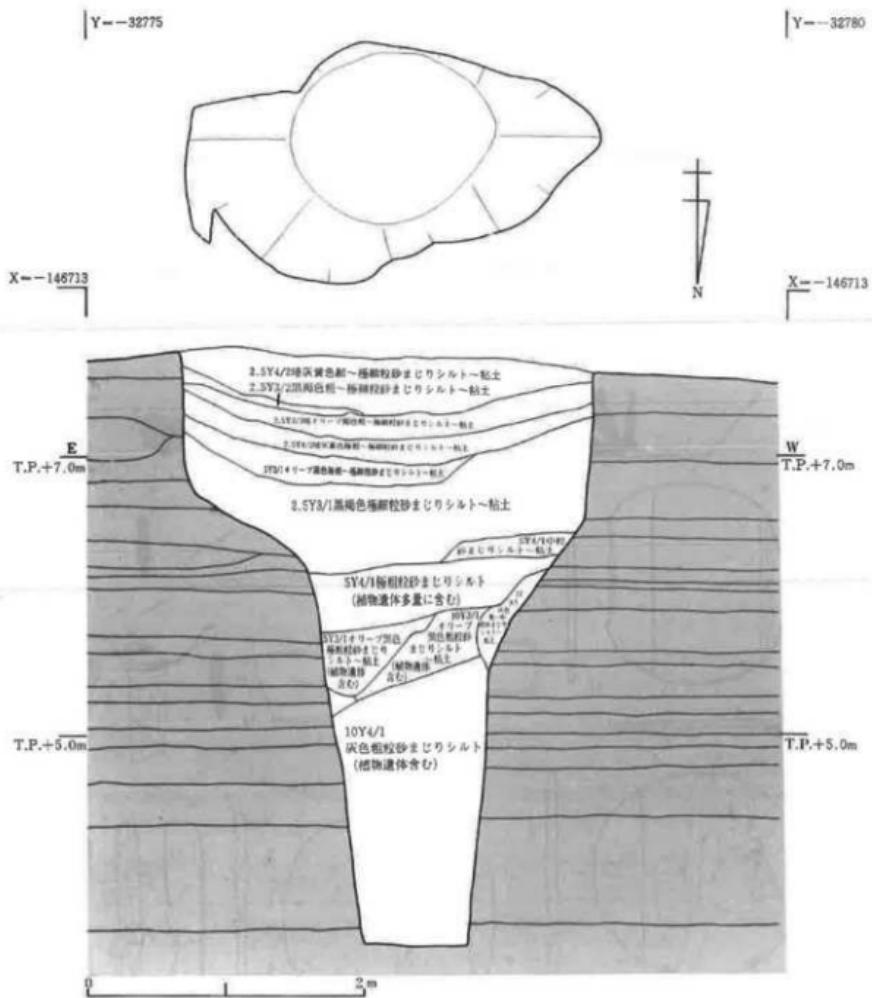
これまでの西ノ辻遺跡の発掘調査で検出されている室町時代から鎌倉時代の井戸のなかで底面まで確認できている井戸を対象に位置・検出時の標高・底面の標高・深さについて図示してみた。第15図は縦軸に標高、横軸に本遺跡の西端と推定される付近X = -32835を起点にほぼ近鉄東大阪線に沿って本遺跡の東端と考えられるX = -32450付近までの約385m分とした。西ノ辻遺跡の推定範囲のうち西端部分の現地表面の標高は約7m、東端部分で約20mを測る。同期の井戸は、西端付近でT.P.+4.4m、東端部でT.P.+15m前後で検出されている。調査地の大部分が既述したように削平を受けていることから井戸の検出面が当時の井戸の開削面ではない。井戸の本来の掘削面は、この高さよりも高位置に考えるべきであろう。また、井戸の検出面は、地山上面の場合がほとんどであることから井戸の検出面は、現在確認できる地山の上面の高さということになる。



第8図 井戸1実測図



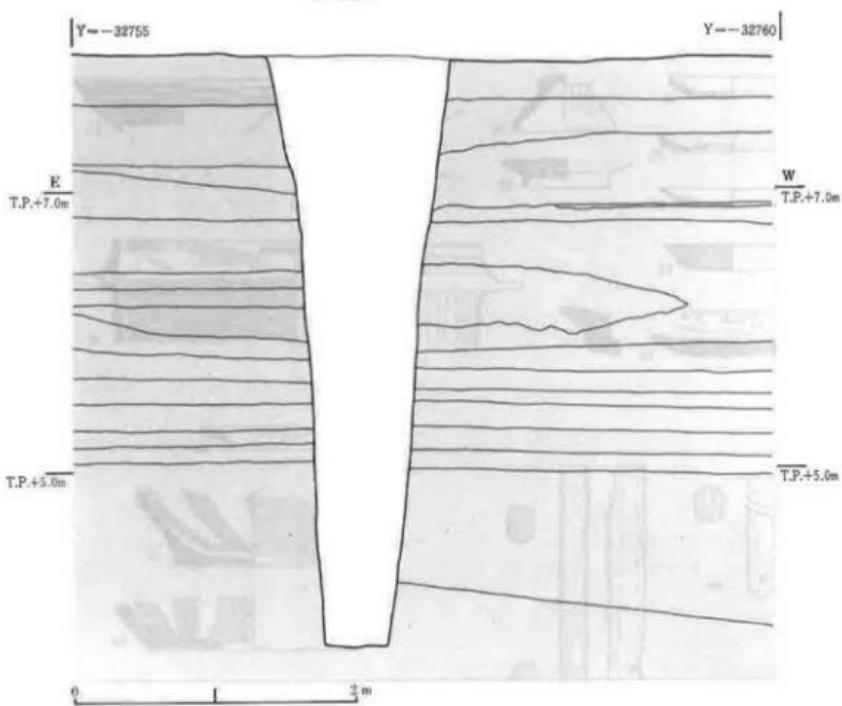
第9図 井戸1出土遺物実測図



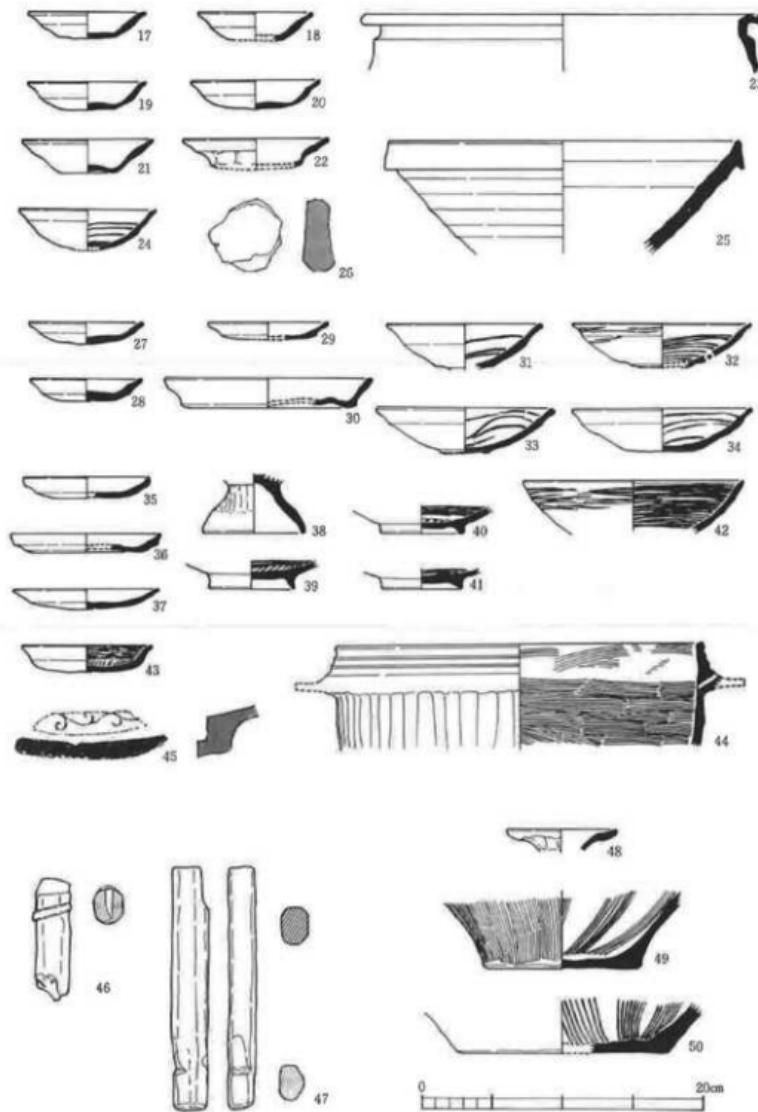
第10図 井戸2実測図

Y = -32755  
X = -146720

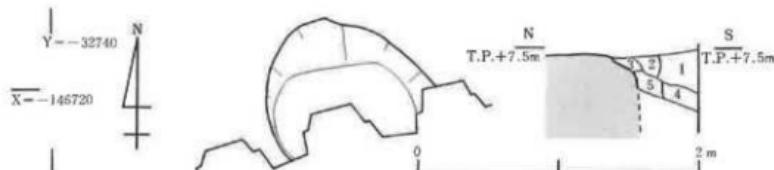
Y = -32760  
X = -146720



第11図 井戸3実測図



第12図 井戸3・5・6・7、土塼墓1、土塼1出土遺物実測図



井戸4断面土層名

- 1 5Y2/2オリーブ黒色粗粒砂まじりシルト～粘土
- 2 7.5Y2/1黒色粗粒砂～粗粒砂まじりシルト～粘土
- 3 5Y2/1墨色シルト～粘土
- 4 7.5Y3/1オリーブ黒色粗粒砂まじりシルト～粘土
- 5 7.5Y2/2オリーブ黒色シルト～粘土

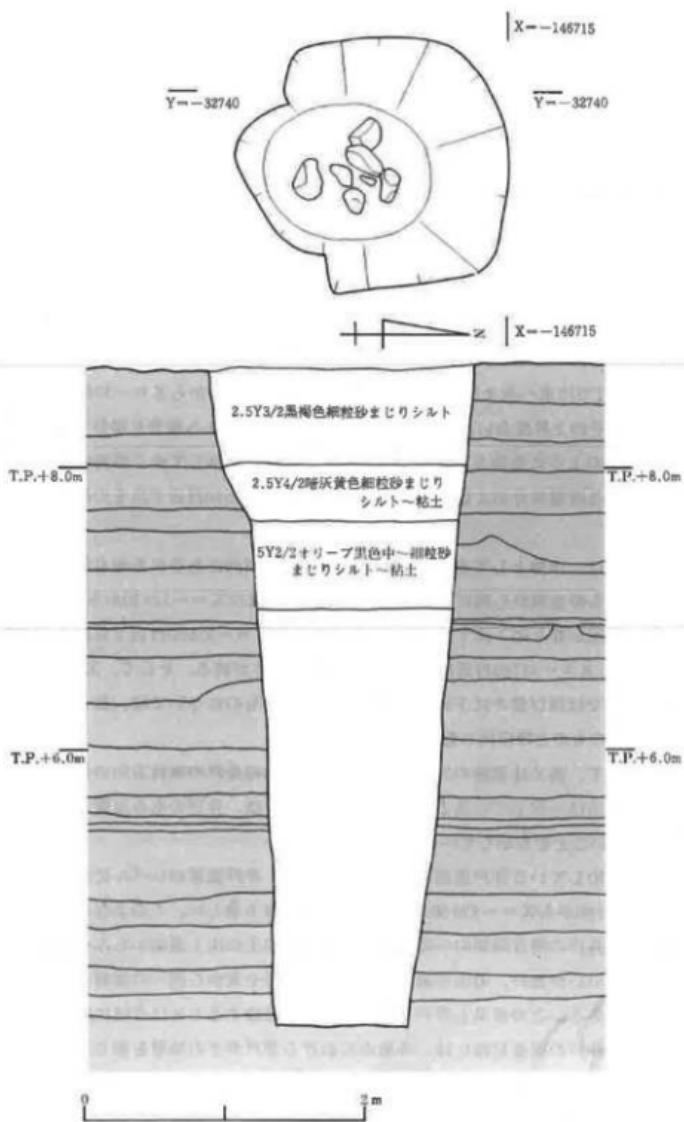
第13図 井戸4実測図

室町時代から鎌倉時代の井戸は、現地表面に沿って東方ほど高位で確認されている。しかし、その確認面は西から徐々に上昇するのではなく、いくつかの変化が認められる。西から順にみてゆくと起点から西へ35m、X=-32800付近までの検出面は、著しく低い。X=-32800からX=-32740付近では東へ徐々に高くなってゆく。X=-32740からX=-32650付近では、T.P.+8.0m～8.4mでその上昇度合いが鈍る。そして、X=-32650から東寄り部分で再び検出面が上昇してゆく。このように全体として東へ向かって検出面が上昇してゆく傾向のなかで近・現代の溜池や段がある西端部分およびX=-32740からX=-32650付近ではその検出面が著しく低くなっている。

井戸底面のレベルは、全体として東ほど高く、西ほど低い傾向にあるが各地点毎にややひらきがある。低位置のものを東から順に結び付けてみると、東端のX=-32430からX=-32550付近までは、井戸底面が徐々に下降する。X=-32550からX=-32660付近で急激な下降を示す。X=-32660からX=-32760付近にかけては一旦その傾きが鈍る。そして、X=-32760付近から西寄りの地点では再び徐々に下降してゆく。高位のものについては、若干位置的な差があるものの低位置のものとほぼ同じ傾向をもつ。

これらのことからみて、西ノ辻遺跡の室町時代から鎌倉時代の井戸の東西方向の傾斜の傾向と井戸底面の傾斜の傾向は一致していることになる。このことは、井戸のある位置が井戸自体の深さを規定していないことを示している。

ほぼ同一地点で検出している井戸底面を比較してみると、井戸底面のレベルには、高低差がある。特にX=-32750からX=-32660付近での高低差が最も著しい。このような井戸底面にみられる高低差は、井戸の埋没時期の一時点を示す井戸内埋土の出土遺物からみた場合、時期差を示しているとはいいがたい。地山を構成する土層の分布や東から西への傾斜角度は、近年検討が加えられつつある。この成果と井戸底面の高低差を比較することは今後に残された課題である。これまでの井戸の調査記録には、各地点における井戸がどの地層を掘り抜き、どの地層まで掘削しているのかの記録が欠損している。各時期の湧水層の確認・各井戸の使用時における井戸内の水量の検討には、井戸の立ち割り断面土層図の作成を必要とすることを指摘しておきたい。

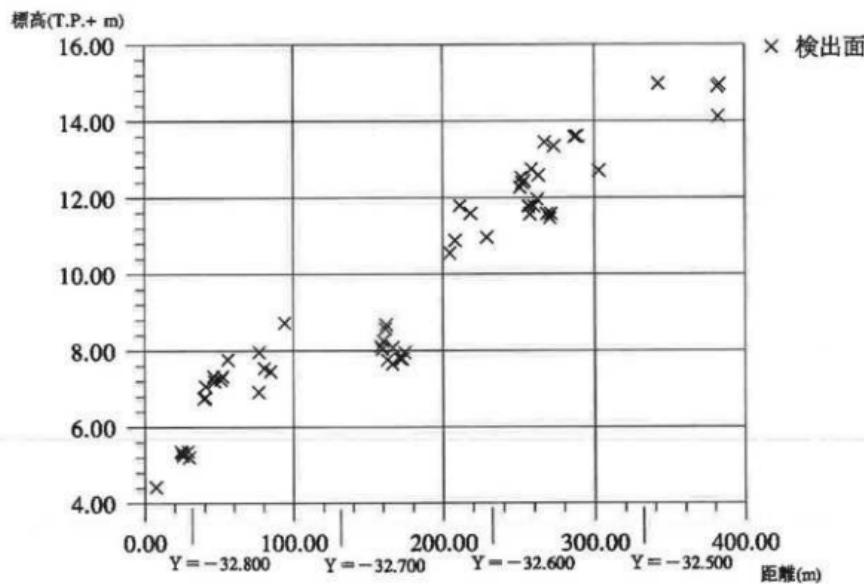


第14図 井戸5実測図

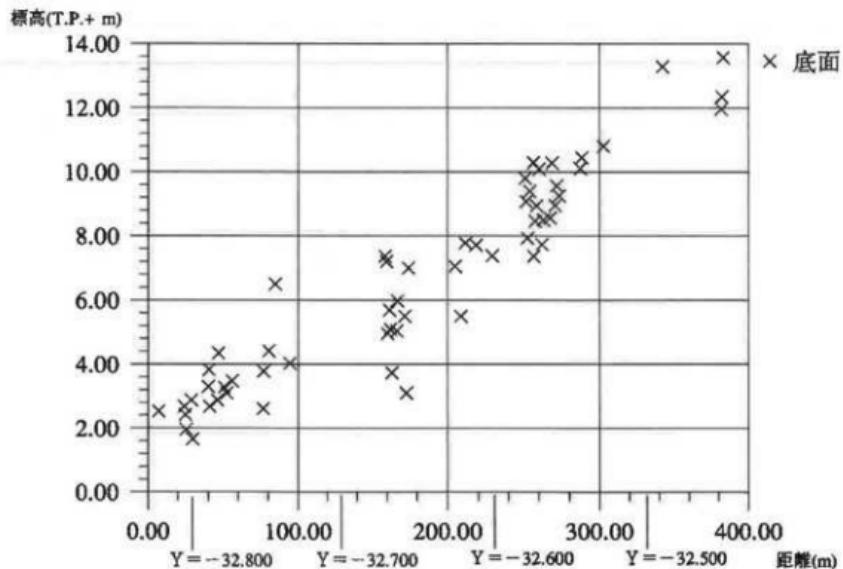
第2表 西ノ江遺跡の中世井戸計測値一覧表

資料No.	調査次	井戸名	位置	検出層	底面レベル	深さ	長径	短径	時期
01	35次	井戸01	Y = -32828	T.P. + 4.42m	T.P. + 2.52m	1.9m	0.84m	0.78m	13世紀後半
02	鬼鹿川26次	井戸01	Y = -32806	T.P. + 5.36m	T.P. + 2.86m	2.5m	1.30m	1.10m	南北朝～室町時代
03	鬼鹿川26次	井戸02	Y = -32800	T.P. + 5.20m	T.P. + 1.64m	3.6m	1.20m	1.20m	室町時代
04	鬼鹿川26次	井戸03	Y = -32810	T.P. + 5.31m	T.P. + 2.41m	2.9m	1.30m	1.20m	南北朝～室町時代
05	鬼鹿川26次	井戸04	Y = -32810	T.P. + 5.36m	T.P. + 2.66m	2.7m	2.30m	2.20m	平安時代末期
06	鬼鹿川26次	井戸05	Y = -32809	T.P. + 5.24m	T.P. + 1.94m	3.3m	1.60m	1.20m	室町時代
07	30次	井戸01	Y = -32784	T.P. + 7.24m	T.P. + 3.26m	4.0m	2.20m	1.12m	15世紀
08	30次	井戸02	Y = -32779	T.P. + 7.76m	T.P. + 3.46m	4.3m	2.76m	1.30m	15世紀
09	30次	井戸03	Y = -32758	T.P. + 7.96m	T.P. + 3.76m	4.2m	1.20m	1.02m	14世紀
10	30次	井戸05	Y = -32740	T.P. + 8.72m	T.P. + 4.03m	4.7m	1.64m	0.93m	中世
11	鬼鹿川24次	井戸01	Y = -32794	T.P. + 7.05m	T.P. + 2.66m	4.4m	2.04m	2.00m	鎌倉時代末期
12	鬼鹿川24次	井戸02	Y = -32789	T.P. + 7.32m	T.P. + 2.86m	4.5m	1.98m	1.88m	南北朝
13	鬼鹿川24次	井戸03	Y = -32788	T.P. + 7.19m	T.P. + 4.33m	2.9m	2.29m	2.26m	南北朝
14	鬼鹿川24次	井戸05	Y = -32782	T.P. + 7.31m	T.P. + 3.08m	4.2m	2.31m	2.05m	南北朝～室町時代
15	鬼鹿川24次	井戸09	Y = -32795	T.P. + 6.74m	T.P. + 3.28m	3.5m	1.70m	1.44m	鎌倉時代末期
16	鬼鹿川24次	井戸10	Y = -32794	T.P. + 6.77m	T.P. + 3.81m	3.0m	1.55m	1.49m	平安時代末期
17	鬼鹿川24次	井戸11	Y = -32758	T.P. + 6.91m	T.P. + 2.59m	4.3m	1.92m	1.50m	室町時代
18	鬼鹿川24次	井戸13	Y = -32754	T.P. + 7.54m	T.P. + 4.40m	3.1m	1.84m	1.60m	鎌倉時代後期～南北朝
19	08次	井戸01	Y = -32750	T.P. + 7.45m	T.P. + 6.49m	1.6m	1.30m	0.90m	14世紀末～15世紀初
20	19次	井戸01	Y = -32662	T.P. + 7.78m	T.P. + 3.08m	4.7m	2.90m	2.80m	南北朝～室町時代
21	19次	井戸02	Y = -32663	T.P. + 7.78m	T.P. + 5.48m	2.3m	2.60m	1.70m	室町時代
22	19次	井戸04	Y = -32672	T.P. + 7.75m	T.P. + 3.72m	4.0m	1.20m	1.10m	平安時代末期～鎌倉時代
23	19次	井戸05	Y = -32668	T.P. + 7.65m	T.P. + 5.03m	2.6m	0.80m	0.80m	平安時代末～鎌倉時代初期
24	19次	井戸07	Y = -32673	T.P. + 8.68m	T.P. + 5.08m	3.6m	1.20m	1.20m	鎌倉時代末～南北朝
25	19次	井戸08	Y = -32674	T.P. + 8.25m	T.P. + 4.95m	3.3m	1.10m	1.10m	南北朝
26	19次	井戸11	Y = -32673	T.P. + 8.57m	T.P. + 5.67m	2.9m	1.10m	0.90m	鎌倉時代末期～南北朝
27	19次	井戸13	Y = -32668	T.P. + 8.08m	T.P. + 5.98m	2.1m	1.20m	1.10m	鎌倉時代後期
28	19次	井戸14	Y = -32675	T.P. + 8.04m	T.P. + 7.19m	0.9m	1.20m	1.00m	平安時代後期
29	19次	井戸15	Y = -32676	T.P. + 8.11m	T.P. + 7.36m	0.8m	1.50m	1.40m	平安時代末期
30	19次	井戸16	Y = -32660	T.P. + 7.95m	T.P. + 6.99m	1.0m	1.60m	1.40m	鎌倉時代末期～南北朝
31	18次	井戸01	Y = -32626	T.P. + 10.86m	T.P. + 5.48m	5.4m	2.60m	2.50m	鎌倉時代
32	18次	井戸05	Y = -32630	T.P. + 10.55m	T.P. + 7.05m	3.5m	1.60m	1.60m	鎌倉時代～南北朝
33	11次	井戸04	Y = -32516	T.P. + 11.58m	T.P. + 7.79m	3.9m	3.25m	3.11m	平安時代後期～鎌倉時代
34	11次	井戸09	Y = -32583	T.P. + 12.52m	T.P. + 9.08m	3.4m	2.00m	1.82m	鎌倉時代後期
35	11次	井戸10	Y = -32582	T.P. + 12.38m	T.P. + 7.93m	4.5m	2.19m	1.19m	鎌倉時代後期
36	11次	井戸11	Y = -32581	T.P. + 12.43m	T.P. + 9.40m	3.0m	2.99m	2.41m	鎌倉時代前期
37	11次	井戸16	Y = -32584	T.P. + 12.26m	T.P. + 9.80m	2.5m	4.09m	2.50m	鎌倉時代中期
38	11次	井戸18	Y = -32576	T.P. + 12.74m	T.P. + 8.94m	3.8m	2.40m	2.31m	鎌倉時代前期
39	11次	井戸23	Y = -32572	T.P. + 11.95m	T.P. + 7.73m	4.2m	1.90m	1.80m	鎌倉時代中期
40	11次	井戸27	Y = -32623	T.P. + 11.79m	T.P. + 7.77m	4.0m	2.45m	1.32m	鎌倉時代中期～後期
41	11次	井戸31	Y = -32572	T.P. + 12.58m	T.P. + 8.50m	4.1m	1.31m	1.26m	鎌倉時代後期
42	11次	井戸32	Y = -32600	T.P. + 10.96m	T.P. + 7.37m	3.6m	2.78m	1.14m	鎌倉時代後期
43	28・29次	井戸01	Y = -32561	T.P. + 13.34m	T.P. + 9.29m	4.1m	1.76m	1.56m	平安時代～室町時代
44	28・29次	井戸02	Y = -32548	T.P. + 13.58m	T.P. + 10.10m	3.5m	1.34m	1.26m	平安時代～室町時代
45	28・29次	井戸04	Y = -32544	T.P. + 13.60m	T.P. + 10.44m	3.2m	1.58m	1.00m	平安時代～室町時代
46	28・29次	井戸05	Y = -32567	T.P. + 13.44m	T.P. + 8.56m	4.9m	2.92m	2.00m	平安時代～室町時代
47	20次	井戸01	Y = -32575	T.P. + 11.78m	T.P. + 10.08m	1.7m	1.70m	1.30m	室町時代
48	20次	井戸03	Y = -32563	T.P. + 11.57m	T.P. + 9.57m	2.0m	2.50m	2.40m	鎌倉時代？
49	20次	井戸04	Y = -32577	T.P. + 11.56m	T.P. + 8.46m	3.1m	1.60m	1.30m	鎌倉時代～南北朝
50	20次	井戸05	Y = -32578	T.P. + 11.78m	T.P. + 10.28m	1.5m	3.10m	3.00m	鎌倉時代
51	20次	井戸06	Y = -32564	T.P. + 11.46m	T.P. + 8.96m	2.5m	4.80m	4.40m	平安時代
52	20次	井戸07	Y = -32578	T.P. + 11.76m	T.P. + 7.36m	4.4m	1.60m	1.40m	平安時代
53	20次	井戸08	Y = -32566	T.P. + 11.57m	T.P. + 10.27m	1.3m	1.60m	1.50m	鎌倉時代～南北朝
54	21次	井戸01	Y = -32532	T.P. + 12.70m	T.P. + 10.80m	1.9m	0.80m	0.80m	14世紀中期
55	06次	中井A	Y = -32492	T.P. + 14.97m	T.P. + 13.27m	1.7m	3.00m	2.90m	14～15世紀
56	32次	井戸01	Y = -32451	T.P. + 14.96m	T.P. + 13.56m	1.4m	3.50m	2.52m	中世
57	32次	井戸02	Y = -32453	T.P. + 14.90m	T.P. + 11.96m	2.9m	2.12m	1.70m	中世
58	32次	井戸03	Y = -32452	T.P. + 14.12m	T.P. + 12.34m	1.8m	1.10m	1.10m	中世

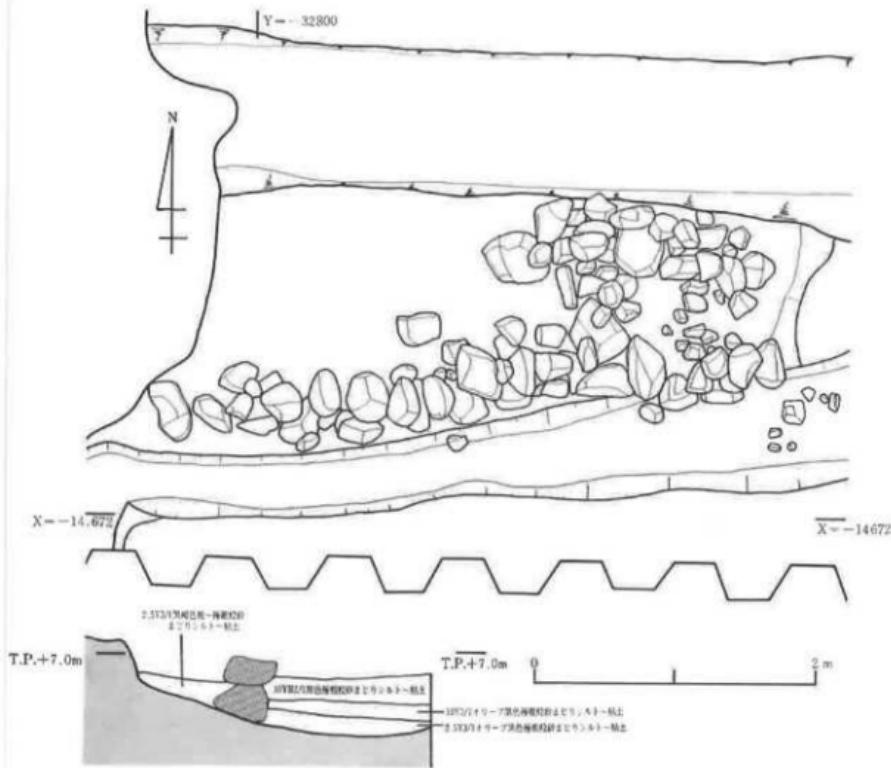
資料No. 02-06・11-18は調査時点では、鬼鹿川遺跡の範囲と考えられているが、現在では西ノ江遺跡の推定範囲に含まれる。



第15図 西ノ辻道路井戸検出面計測図



第16図 西ノ辻道路井戸底面計測図



第17図 土壌1実測図

### 土壤

当期の土壤は、調査区全域から15基確認している。このうち、調査区南西寄りにある土壤1は、西側を近代以降の段、北側を搅乱、南側を溝1によって削り取られるが、南辺および東辺に沿って人頭大の自然石を使用した石積みが残存する。石は小口積みにし、保存状態の良好な部分で2段分確認できる。

### 土壤墓

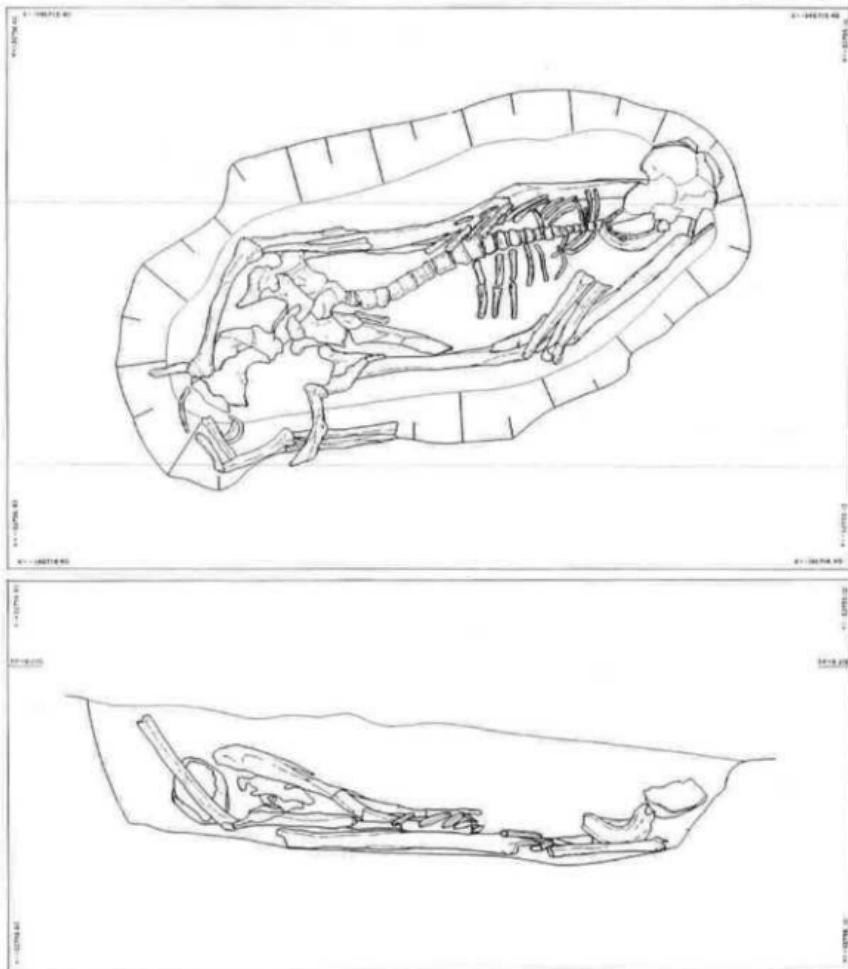
調査区中央からやや東寄りの地点から土壤墓1基を検出している。土壤墓1は、井戸6・7の埋没後に築かれている。墓壙の主軸は、座標に対してE-18°-Nである。

墓壙内からは比較的保存状態のよい2体の人骨を検出している。人骨の出土状況を詳細にみてゆくと、2体の人骨は、頭を向き合うように上下に重なり合った状態で出土している。下部の人骨は頭を西に向かって、墓壙の西壁に上半身をもたせかけ、手足をやや折曲げた姿勢を取る。現地での田賀谷先生の鑑定では、成人男性の可能性が強い。上部の1体は、前述した人骨の足の直上

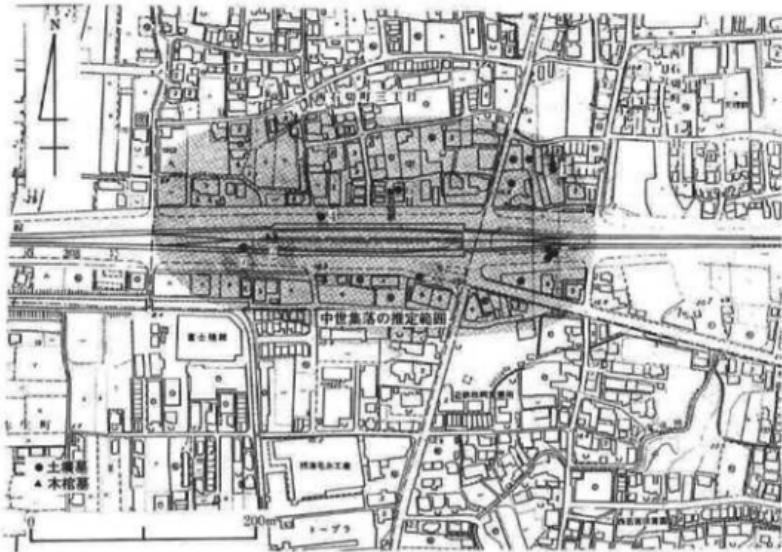
に頭を東に向けて仰臥屈葬の姿勢を呈している。現地での鑑定では40才台の男性の可能性が強い。なお、眉間と下頸部分には、黒く焼け焦げた痕跡をとどめる。このような出土状態から2体はほぼ同時に埋葬したものと推定できる。副葬品や鉄釘・棺の痕跡はまったく検出できない。

室町時代から鎌倉時代の墓は、西ノ辻遺跡の従前の発掘調査や本遺跡の周辺にある植附遺跡・水走遺跡から検出されている。これらの諸例を次に掲げる。

この表より次の点を指摘できる。本遺跡周辺の同期の墓には、死者を直接穴の中に埋めた土



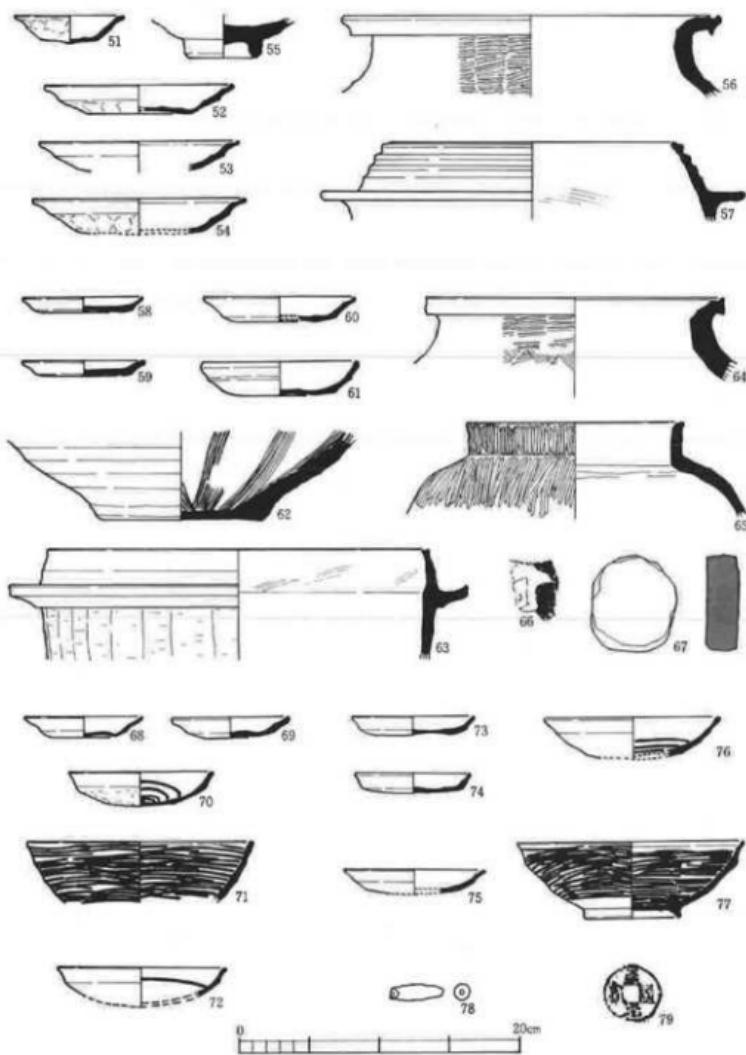
第18図 土塙墓1実測図 ( $S = 1/10$ )



第19図 西ノ辻遺跡の中世墓分布図

番号	遺跡名	調査文	遺構名	埋葬形式	長(m)	幅(m)	深(m)	形態	埋葬数	埋葬者性別	年季	性別	副葬品種類	副葬品名前	副葬品数量	時期	備考
1	辻り遺跡	昭和	木棺墓1	木棺墓				横丸形	1	同性別	男	大人	丸太	白磁	所	1	
													瓦器	所	1		
													土器	所	3		
													土器	所	4		
1	辻附近	昭和	木棺墓2 土塚墓	土塚墓	1.50	0.62	0.20	横円形	1	同性別	不詳	不明	丸太			なし	
木辻遺跡	昭和	土塚墓	土塚墓														調査年代
																	上野朝明、才吉企父 「木北遺跡尋幸之才、先 史遺跡研究會及文化遺 跡研究會」竹内正人著 日本古文化研究会 1972
2	西ノ辻遺跡	昭和	木棺墓1	木棺墓	1.33	0.43		横丸形	1	同性別	女性	大人	丸太	瓦器	所	1	日奈紀
													土器	所	5		
													金銀製品	所			
2	西ノ辻遺跡	昭和	木棺墓2	木棺墓	1.47	0.43		横丸形	1	同性別	男性	大人	丸太	土器	所	6	日奈紀
													金銀製品	所			
3	西ノ辻遺跡	昭和	土塚墓1	土塚墓	1.08	1.00		横円形	1	同性別	男性	大人	丸太	土器	所	3	
3	西ノ辻遺跡	昭和	土塚墓2	土塚墓	1.72	1.00		横円形	1	同性別	不明	大人	丸太			なし	
3	西ノ辻遺跡	昭和	土塚墓3	土塚墓	1.48	0.72		横円形	1	同性別	男性	大人	丸太	土器	所		日奈紀
4	西ノ辻遺跡	昭和	土塚墓	土塚墓	1.50	0.55	0.16	長方形	1	同性別	男性	大人	丸太				西口編一、宮崎重安 「西ノ辻・西ノ江、鬼塚 川遺跡発掘調査報告書」 B.I. 大阪府教育委員会 1998
5	西ノ辻跡	昭和	土塚墓	土塚墓	0.8	0.5	0.1	横丸形	1	同性別	女性	大人	丸太	土器	所		日奈紀
6	西ノ辻跡	昭和	土塚墓	土塚墓	0.4	0.4	0.1	横円形	1	同性別	不詳	不明	丸太	白磁	所	1	日奈紀
7	西ノ辻遺跡	昭和	土塚墓1	土塚墓	1.16	0.38	0.28	横円形	2	同性別	女性	成人	丸太				

第3表 西ノ辻遺跡周辺の中世墓一覽表



第20圖 溝1・6・13、Pit出土遺物実測図

墳墓と木棺に埋納したうえで埋めた木棺墓がある。本調査例を除き死者は、頭を北に向かって、屈葬の姿勢で墓壙内に1体葬る。

被葬者は、成人男性が多いが、成人女性が2例みられる。木棺の使用に性差は認められない。副葬品には、複数の土師器皿・瓦器碗・輸入磁器がある。土壙墓には、副葬品を全く含まないこともある。木棺墓には、輸入磁器の碗1点を伴う。

これらの墓は、ほぼ同一地点に2~3基が近接して存在するものと単独で検出される場合がある。次に西ノ辻遺跡およびその周辺にある遺跡で確認している中世の集落の拡がりをみると本遺跡西方の鬼虎川遺跡や東接する神並遺跡の西端部分から同期の遺構・遺物は、ほとんどみつかっていない。また、北寄りにある植附遺跡の第1・2次調査では、調査区の北端部分ほど当期の遺構が少なくなる傾向にある。さらに、近鉄東大阪線新石切駅の南部分でもこれまでのところ当期の遺構・遺物はほとんど知られていない。したがって室町時代から鎌倉時代における集落の拡がりは、近鉄東大阪線新石切駅付近を中心に東西約350m・南北約100mに拡がるものと推定できる。このような集落の拡がりのなかでの墓の位置は、集落の推定範囲の周縁部分に占地していることになる。

#### 溝

室町時代から鎌倉時代の溝は、調査区全域から19条検出している。溝の方向は、概ね東西方と南北方向のものがある。

溝13は、中央部分に南北方向の土手状の高まりがある。溝の南端と北端部分の底面のレベル差は、ほとんどない。なお、溝13は本調査の南側で実施している西ノ辻遺跡第8次調査SD15と同一の遺構である。さらに、本調査区北側の鬼虎川遺跡第25次調査でも同一の溝を検出している。これらの3度の調査によって、この溝は、全長約20.7mを確認したことになる。

溝12は、その位置や方向から西ノ辻遺跡第8次調査SD18と同一の遺構で全長約20.8m検出したことになる。

#### Pit

Pitは総数183個検出している。これらのPitの多くは、調査区東寄り部分で検出しており、重複関係や埋土・出土遺物からみて室町時代から鎌倉時代のものと思われる。

通路名	板石平面形	板石上面形	長(cm)	巾(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	埋置	板石上面高	裏方底面高	備考
Pit026	菱形	台形	29.0	9.7	7.0	3500	花崗岩	削石	T.P.+7.62m	T.P.+7.54m	
Pit030	菱形	長方形	10.9	15.0	8.7	6300	花崗岩	自然石	T.P.+7.67m	T.P.+7.58m	
Pit036	菱形	台形	24.1	16.2	11.8	9000	花崗岩	削石	T.P.+8.02m	T.P.+7.87m	
Pit061	菱形	台形	23.4	10.4	9.1	5600	花崗岩	自然石	T.P.+7.87m	T.P.+7.78m	焦げ跡あり
Pit131											
Pit141											
Pit153											
Pit169	五角形	長方形	18.0	17.0	7.0	3500	花崗岩	削石	T.P.+7.92m	T.P.+7.83m	焦げ跡あり
Pit169	三角形	三角形	13.4	9.3	8.5	1500	花崗岩	削石	T.P.+7.86m	T.P.+7.77m	

第4表 板石一覧表

Pit内には、根石の存在するものが9個ある。根石は、斑頬岩の自然石や割石を使用し、平坦な面を上に向けて据え付けている。

Pitによって構成される建物は、当調査区内では復原できない。

### 3) 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、調査区中央の北端部分で土壙1基(土壙8)のみを検出している。周辺の調査区からも当期の遺構は、ほとんど確認されていないことから既に削平されたものを考慮しても数少ないものと推定できる。

### 4) 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、当調査区の東南側で既に実施している西ノ辻遺跡第7次調査で中期の方形周溝墓が多數検出されている。第30次調査で確認できた弥生時代の遺構は、調査区中央から東寄り部分で溝2条・土壙2基・落ち込み1基のみである。

#### 溝

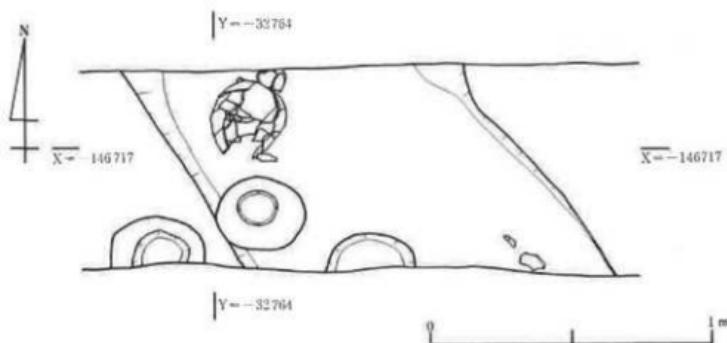
溝20は、位置と方向からみて本調査の南側で実施している西ノ辻遺跡第8次調査のSD29と同一の遺構である。また、北側の調査区(鬼虎川遺跡第25次調査)でもこの溝の続きを検出している。これらの3度の調査によってこの溝は西南方向から北東方向に26.6mを検出したことになる。

#### 土壙

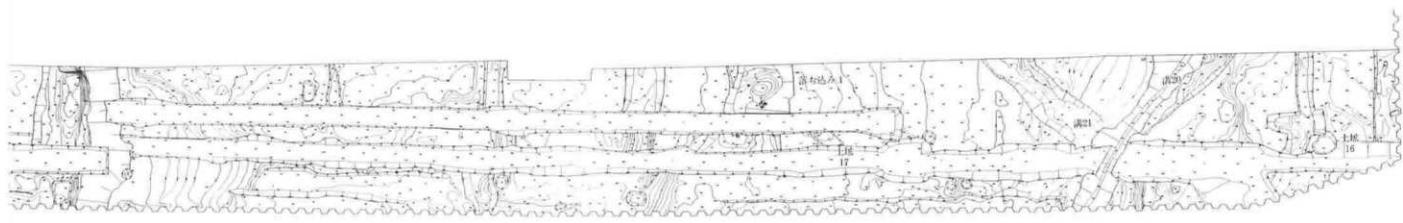
土壙17は、南北両側が擾乱によって削り取られている。土壙内の西寄りからは、体部下半に穿孔のある弥生時代中期の壺1個体が口縁部を北に向けた状態で出土している。

#### 落ち込み

落ち込み1は、南側を擾乱によって削り取られている。さらに北側は、調査地区外にのびてゆくため平面形は不明である。埋土の下層から弥生時代中期の土器類、上層から古墳時代中期末頃の土器が出土している。

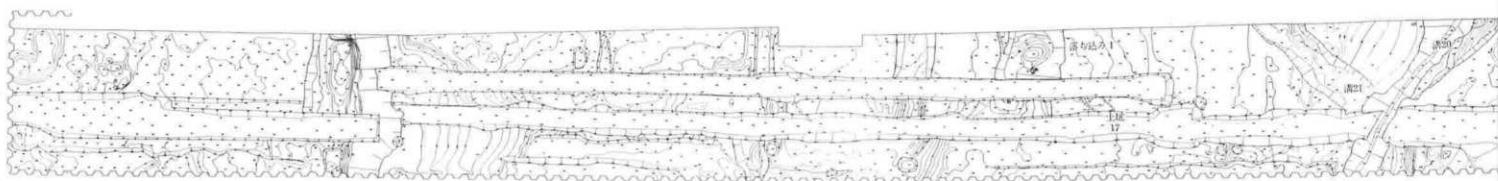


第21図 土壙17実測図

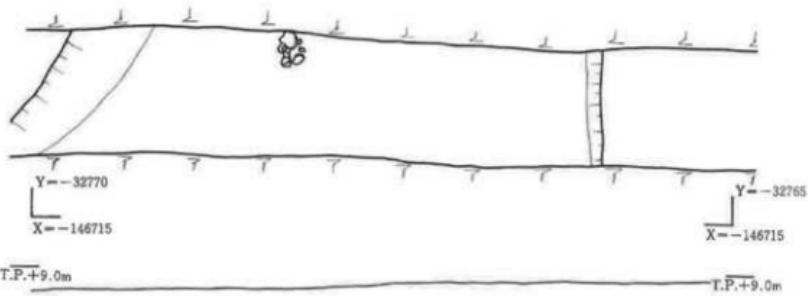
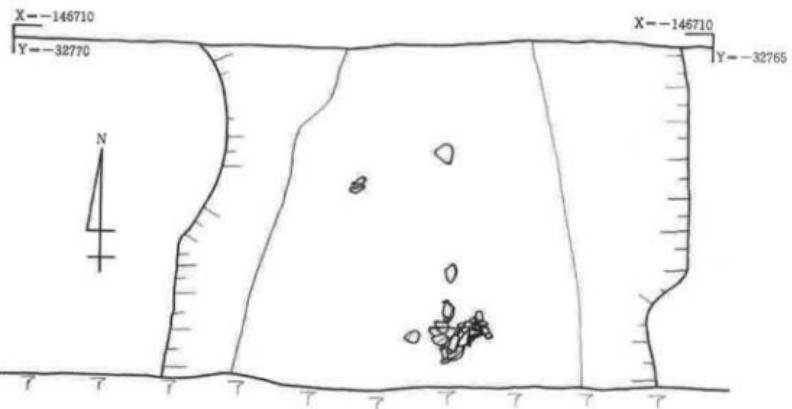


第22図 弥生時代の遺構実測図 ( $S = 1/200$ )

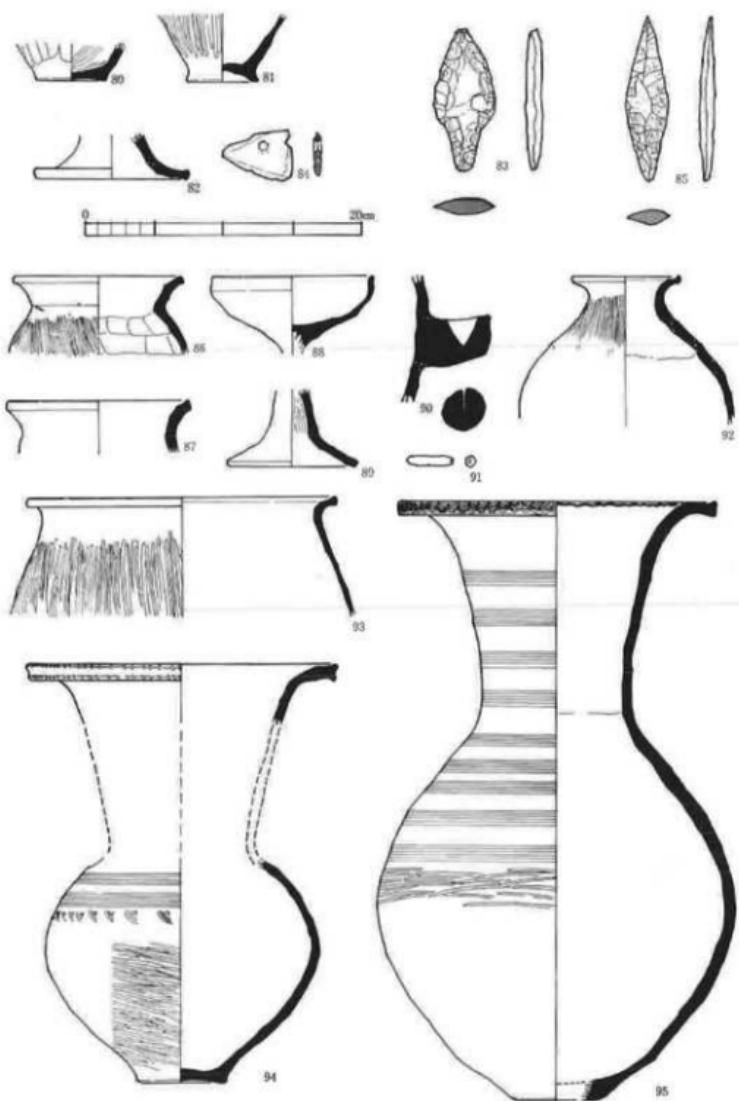
-27・28-



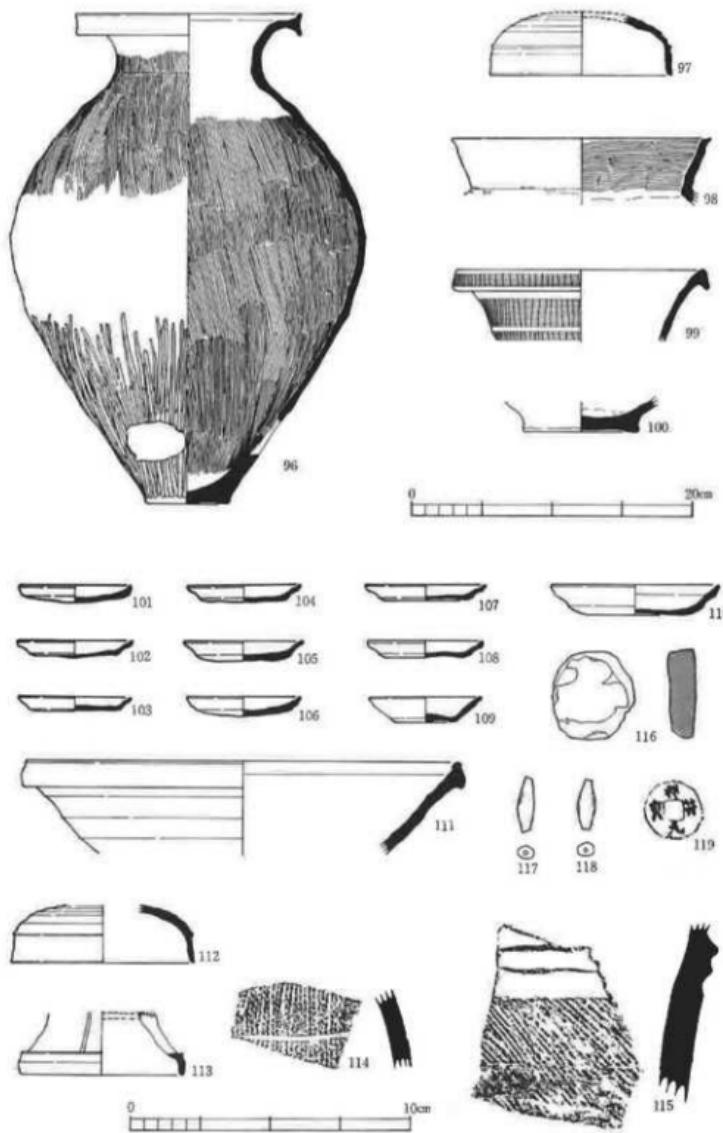
第22図 弥生時代の遺構実測図 ( $S=1/200$ )



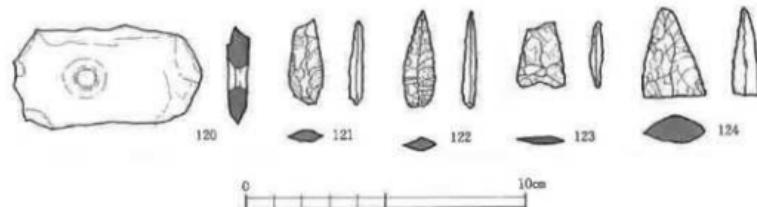
第23図 蓋ち込み1実測図



第24図 溝20・21、落ち込み1出土遺物実測図



第25図 土壌7・8・9・16、第9層出土遺物実測図 (114・115・119はS=1/2)



第26図 第9層出土遺物実測図

## V 出土木製品の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

西ノ辻遺跡(東大阪市西石切町～弥生町所在)は、生駒山西麓の低位段丘上に位置する。西ノ辻遺跡では、これまでに弥生時代中期から室町時代までの遺構・遺物が検出されている。今回の発掘調査では中世の井戸址が検出され、内部から同時代のものと推定される木製品が出土した。

今回の分析調査では、井戸址内から出土した木製品(容器底板3点・包丁柄1点・鎌柄4点)8点について材同定を行い、中世木製品の用材選択について検討を行う。

### 1. 試料

試料は、中世井戸(井戸01, 05)から出土した木製品8点(井戸01: 6点、井戸05: 2点)である。

### 2. 方法

剃刀の刃を用いて、試料の木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製した。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の特徴を観察し、同定した。

### 3. 結果

試料は、マツ属複維管束亜属の一種1点(014)、ヒノキ属の一種3点(011-013)、コナラ属アカガシ亜属の一種1点(015)、クリ1点(047)、シイノキ属の一種2点(016, 046)であった(表1)。各種類の主な解剖学的特徴や現生種の一般的性質等を以下に記す。なお和名・学名等は、主として「原色日本植物図鑑 木本編II」(北村・村田, 1979)に従い、現生種の一般的性質等については「木の事典 第2巻～第7巻」(平井, 1979-1980)も参考にした。

- マツ属複維管束亜属の一種(*Pinus* subgen. *Diploxylon* sp.) マツ科

早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はなく、樹脂道が認められる。放射組織は仮道管、柔細胞とエピセリウム細胞よりなり、分

野壁孔は窓状、仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められ、単列、1~15細胞高のものと水平樹脂道をもつ紡錘形のものがある。

複維管束亞属(いわゆる二葉松類)には、アカマツ(*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.)、クロマツ(*P. thunbergii* Parlatoore)、リュウキュウマツ(*P. luchuensis* Mayr)の3種がある。アカマツとクロマツは本州・四国・九州に分布するが、クロマツは暖地の海沿いに多く生育し、また古くから砂防林として植栽されてきた。リュウキュウマツは琉球列島特産である。材は重硬で強度が大きく、保存性は中程度であるが耐水性に優れる。建築・土木・建具・器具・家具材など広い用途が知られている。

ヒノキ属の一種(*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科

早材部から晩材部への移行は緩やかへやや急で、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で1~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

ヒノキ属には、ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher)とサワラ(*C. pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher)の2種がある。ヒノキは本州(福島県以南)・四国・九州に分布し、また各地で植栽される常緑高木で、国内ではスギに次ぐ植林面積を持つ重要樹種である。材はやや軽軟で加工は容易、割裂性は大きいが、強度・保存性は高い。建築・器具材など各種の用途が知られている。サワラは本州(岩手県以南)・九州に自生し、また植栽される高木で多くの園芸品種がある。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため、樽や桶にするほか各種の用途がある。

・コナラ属アカガシ亜属の一種(*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では梢円形、単独で放射方向に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は短接線上および散在状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は不明瞭。

アカガシ亜属(カシ類)には、アカガシ(*Quercus acuta* Thunberg)、イチイガシ(*Q. gilva* Blume)、アラカシ(*Q. glauca* Thunberg)など7種があるが、果実の構造からコナラ亜属に分類される常緑低木~小高木のウバメガシ(*Q. phylloraeoides* Asa Gray)も、材構造上はカシ類と類似する。カシ類は、暖温帯常緑広葉樹林(いわゆる照葉樹林)の主要な構成種であり、主として西南日本に分布する。このうち最も高緯度地域にまで分布するのがアカガシで、宮城・新潟県が北限である。材は重硬・強韌で、器具・機械・建築・薪炭材などに用いられる。また種子は食用となる。

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc) ブナ科

環孔材は孔圈部は1~4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では円形~梢円形、小道管は単独および2~3個が斜(放射)方向に複合、横断面では角張った梢円形~多角形、ともに管壁は薄い。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に

配列、放射組織との間では横状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、橋木や海苔粗朶などの用途が知られている。樹皮からはタンニンが採られ、果实は食用となる。各地の遺跡からの出土例の多い樹種の一つである。

・シイノキ属の一種 (*Castanopsis* sp.) ブナ科

環孔材～放射孔材で孔圈部は3～4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では梢円形、小道管は単独および2～3個が斜(放射)方向に複合、横断面では角張った梢円形～多角形、ともに管壁厚は中庸～薄い。道管の穿孔は單穿孔であるが、小道管には1～6段前後の階段穿孔が現れることがある。道管内壁の壁孔は交互状に配列、放射組織との間では横状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。柔組織は周囲状、散在状および短接線状。年輪界は明瞭。

シイノキ属には、ツブラジイ(コジイ) (*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) S chottky)とその変種スダジイ (*C. cuspidata* var. *sieboldii*(Makino) Nakai)がある。この内、典型的なツブラジイは集合～複合放射組織が存在することで分けられる。しかし、ツブラジイの中にも集合～複合放射組織の出現頻度が少なく、作成した切片に観察できないときがある。したがって、集合～複合放射組織があらわれればツブラジイと同定できるが、あらわれないからスダジイであるとはいえない。

シイノキ属は、カシ類とともに、暖温帯常緑広葉樹林の主要構成種である。ツブラジイは本州(伊東半島以西南)・四国・九州に、スダジイは本州(福島・新潟県以南)・四国・九州・琉球に分布し、また植栽される高木である。一般には、スダジイが沿海地、ツブラジイが内陸地に生育する。材はやや重硬で、割裂性は大きく、加工はやや容易、耐朽性は中程度～低い。材質的にはツブラジイはスダジイより劣るものとされている。薪炭材としての用途が最も多く、器具・家具・建築材などにも用いられる。種子は食用となり、樹皮はタンニン原料となる。

#### 4. 考察

各用途の種類は、容器底板がヒノキ属、包丁柄がマツ属複維管束亞属、鎌柄がアカガシ亞

番号	出土遺構	器種	時代	樹種名
011	井戸01	容器底板	中世	ヒノキ属の一種
012	井戸01	容器底板	中世	ヒノキ属の一種
013	井戸01	容器底板	中世	ヒノキ属の一種
014	井戸01	包丁柄	中世	マツ属複維管束亞属の一種
015	井戸01	鎌柄	中世	コナラ属アカガシ亞属の一種
016	井戸01	鎌柄	中世	シイ属の一種
016	井戸05	鎌柄	中世	シイ属の一種
047	井戸05	鎌柄	中世	タリ

第5表 出土材の樹種同定結果一覧表

属・シイノキ属・クリであった。

容器底板については、本遺跡周辺でこれまでに同様の木製品について同定を行った例は知られていない。しかし、他地域では曲物底板などの木製品にヒノキ属が多く用いられており(島地・伊東1988)、今回の結果はこれまでの傾向と調和する。また、市内では鬼虎川遺跡などから出土した弥生時代を主とする板材にヒノキ属が多く同定され(例えば、鶴倉、1990; 松田、1980等)、弥生時代以降板状の加工を施す木製品にヒノキ属が多く用いられたことが示唆される。ヒノキ属が多く用いられた背景には、加工が容易であること、水温に強いこと、入手が比較的容易であつたこと等が考えられる。

包丁柄に使用されているマツ属複維管束亜属(いわゆる二葉松類)は、針葉樹材の中では比較的堅い材質をもつ。中世の包丁の柄に用いられる材に、どの程度の強度や加工性が要求されたのかは不明であるが、遺物の実測図を見る限り、金属製の刃をはめ込む場所には高い加工性が必要であつたと思われる。加工性と強度の両方を兼ね備えた木材としてマツ属複維管束亜属が選択された可能性があるが、断定はできない。

鎌柄には3種類が使用されていたが、いずれもブナ科の堅い木材である。特にアカガシ亜属は、農具の柄としても多く用いられ(島地・伊東、1988)、東大阪市内でも時代は異なるが、鬼虎川遺跡第4・5次調査(林ほか、1988)等で報告されている。また、シイノキ属も鬼虎川遺跡7次調査(島地ほか、1987)で報告されている。今回の結果も弥生時代の例と同様に、堅く丈夫な木材を選択した結果と考えられる。また、このような用材選択が弥生時代以降継続して行われていたと考えられる。

#### 5まとめ

今回の結果は、いずれも用途も使用する木材の強度や加工性等を把握した上で適切な用材選択があったことを伺わせる。このような傾向は、周辺の遺跡から出土した弥生時代を中心とする木製品の材同定結果でも見られ、弥生時代以降遺材適所の用材選択が継続して行われていたことを示唆する。本地域における中世木製品の用材選択に関する資料は、弥生時代の資料と比較するとはるかに少ない。したがって、今後同様の木製品が出土した際には、可能な限り材同定を行い資料の蓄積を行う必要がある。

#### 文献

- 林 昭三・島地 謙・植田弥生(1988)出土木製品の樹種(第4・5次)。「鬼虎川遺跡調査概要 I 遺物編 木製品」, p.69-94, 財團法人東大阪市文化財協会。  
平井信二(1979-1980)木の事典 第2巻~第7巻。かなえ書房。  
北村四郎・村田 源(1979)原色日本植物図鑑 木本編 (II), 545p, 保育社。  
松田隆嗣(1980)木製遺物の樹種について。「瓜生堂 近畿自動車道天理~  
吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—本文編ー」, p.445-448, 財團法人大阪文化財センター。

島地 謙・伊東隆夫編(1988)日本の遺跡出土木製品総覧。296p, 雄山閣。

島地 謙・林 昭三・植田弥生(1987)鬼虎川遺跡出土木製品の樹種(第7次)。「鬼虎川の木質遺物—第7次発掘調査報告書 第4冊ー。p.39-67, 財団法人東大阪市文化財協会。

鶴倉巳三朗(1990)東大阪市鬼虎川遺跡から出土した加工木の樹種。「鬼虎川遺跡第1次~3次発掘調査報告」, p.54-56, 財団法人東大阪市文化財協会。

## VI まとめ

西ノ辻遺跡第30次発掘調査では、以上のような資料を得ることができた。以下では、調査成果と今後の課題について列挙しまとめたい。

### 室町時代から鎌倉時代

当期では、井戸・土壙・溝・柱穴・土壙墓などの集落を構成する遺構を確認することができた。遺構の重複関係や出土遺物からみて検出した遺構は、鎌倉時代初め頃のものと鎌倉時代末から室町時代のものに大別できる。

同期の建物跡やその配置については、根石をもつ柱穴をはじめ多数の柱穴が検出されているもののこれまでのところ復原するに至っていない。

調査地周辺での集落内にある土壙墓の検出例は、本例を加え11例を数える。これらの土壙墓は、鎌倉時代から室町時代のもので集落の各所に散在している。本例は、男性2人を同時に埋葬している点や被葬者の頭位の点で他の諸例と異なっている。集落内の居住空間に墓を造営することは、弥生時代から鎌倉時代まで認められず当期から始まる。その歴史的意義については、今後の検討に委ねる。

### 古墳時代

本調査では5世紀末から6世紀初頭ころの遺物を含む土壙1基を検出したのみである。調査地点の西側にあたる鬼虎川遺跡第33次発掘調査で同期の竪穴住居や掘立柱建物が検出されていることから、当期の集落は本調査区の北西寄りに存在していたものと推定できる。

### 弥生時代

本調査区の東側の地点や西側の鬼虎川遺跡では中期の方形周溝墓群が確認されているものの、本調査では中期の溝・土壙・落ち込みを検出したのみである。弥生時代中期以降の削平を考慮にいれても同期の遺構は少ない。したがって、本調査地点付近が同期の鬼虎川遺跡と西ノ辻遺跡との境界部分にあたるという従来からの推定を追認する結果となった。

## 西ノ辻遺跡30次調査遺構一覧表

遺構番号	番号	種別	位置	平面形	東西W(m)	南北L(m)	深さ(tm)	地 土	時期	種類	分類
pit	1	地中上部	A地区	円形	25.0	15.0上	2.0	10YR4/2 細粒砂泥シルト	中世		
pit	2	地中上部	A地区	円形	21.0	9.0上	2.0	10YR4/2 細粒砂泥シルト	中世		
pit	3	地中上部	A地区	円形	23.0	22.0	3.0	2.5Y3/2 新粒砂泥シルト	中世		
pit	4	地中上部	A地区	楕円形	11.5	15.5	4.5	2.5Y1/1 平粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	5	地中上部	A地区	楕円形	10.5	15.0	2.0	2.5Y4/2 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	6	地中上部	A地区	楕円形	30.0	7.0上	2.5	2.5Y4/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	7	地中上部	A地区	円形	13.0	16.0	2.5	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	8	地中上部	A地区	円形	10.0	7.0	3.0	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	9	地中上部	A地区	円形	13.0	9.5	3.0	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	10	地中上部	A地区	円形	13.5	11.0	5.5	2.5Y4/1.5 小粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	11	地中上部	A地区	円形	6.5	8.0	3.0	2.5Y1/1.5 小粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	12	地中上部	A地区	円形	11.0	13.0	2.5	2.5Y1/1.5 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	13	地中上部	A地区	円形	6.0	7.0	2.0	2.5Y4/1.5 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	14	地中上部	A地区	楕円形	8.5	12.0	2.5	10YR3/1.5 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	15	地中上部	A地区	円形	13.0	12.0	3.5	10YR3/1.5 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	16	地中上部	A地区	円形	15.0	10.0上	4.0	10YR3/1 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	17	地中上部	A地区	円形	10.5	11.0	2.5	10YR3/1 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	18	地中上部	A地区	円形	10.0	8.0	3.5	10YR3/1 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	19	地中上部	A地区	圓形	9.0	15.0	2.0	10YR3/1 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	20	地中上部	A地区	楕円形	16.0	10.0	5.5	10YR3/2 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	21	地中上部	A地区	円形	21.0	20.0	30.0	2.5Y4/2 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	22	地中上部	B地区	楕円形	23.0	22.0	4.5	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	23	地中上部	B地区	円形	30.0	31.0	4.5	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	24	地中上部	B地区	円形	25.0	29.0	13.5	2.5Y4/1 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	14世纪後半	瓦器 土器群	陶
pit	25	地中上部	B地区	円形	21.5	38.5	22.5	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	26	地中上部	B地区	圓形	34.0	38.5	3.0	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	27	地中上部	B地区	円形	32.5	29.0	16.5	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	28	地中上部	B地区	円形	27.0	27.5	12.5	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	29	地中上部	B地区	楕円形	28.0	49.0	13.0	2.5Y3.5/1 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世	土器群 鐵頭等	
pit	30	地中上部	B地区	円形	28.0	33.0	7.0	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世	瓦器 土器群	陶
pit	31	地中上部	B地区	円形	29.0	31.0	18.0	2.5Y3.5/1 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	32	地中上部	B地区	円形	13.0	11.5	2.0	2.5Y3.5/1 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	33	地中上部	B地区	円形	12.5	11.0	4.0	2.5Y3.5/1 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	34	地中上部	B地区	円形	11.0	10.5	18.0	2.5Y3.5/2 中粒砂—細粒砂泥シルト	中世		
pit	35	地中上部	C地区	楕円形	62.5	123.0	38.0	2.5Y4/2 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世	生土土器	
pit	36	地中上部	C地区	楕円形	34.0	15.0上	2.0	2.5Y4/1 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世		
pit	37	地中上部	C地区	円形	26.5	28.0	14.0	2.5Y3.5/1 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世	土器群	瓦
pit	38	地中上部	C地区	楕円形	49.0	25.0	38.0	2.5Y3.5/1 中粒砂—細粒砂泥シルト—粘土	中世	瓦器 土器群	瓦
pit	39	地中上部	C地区	楕円形	31.0	18.5上	21.0	2.5Y4/1 細粒砂—細粒砂泥シルト	中世	瓦器 土器群 褐色土器	陶

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

地理基準名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(m)	南北幅(m)	深さ(m)	用 土	時期	種 別	部 位
pit	40	地山上部	C地区	横円形	22.5	13.52上	51.5	2.5Y3.5/1 細粒砂一無機物外混シルト	中世	瓦砾 土解器 瓦 遺物	陶
pit	41	地山上部	C地区	円形	6.2	5.5	2.0	2.5Y4/2 細粒砂一無機物外混シルト一粘土	中世		
pit	42	地山上部	C地区	円形	30.5	31.5	53.0	2.5Y4/2 細粒砂一無機物外混シルト一粘土	13世紀	瓦砾 土解器 瓦 遺物 微生物	陶
pit	43	地山上部	C地区	後方形	39.5	35.0	56.0	5 Y3.5/2 細粒砂一無機物外混シルト	中世	土解器 微生物	陶 瓦
pit	44	地山上部	C地区	円形	25.5	25.0	40.0	2.5Y3.5/2 細粒砂外混シルト一粘土	中世		
pit	45	地山上部	C地区	円形	17.5	16.5	56.0	2.5Y3.5/2 細粒砂外混シルト一粘土	中世		
pit	46	地山上部	C地区	円形	11.0	9.0	5.0	2.5Y3.5/2 細粒砂外混シルト一粘土	中世		
pit	47	地山上部	C地区	横円形	25.5上	17.0上	30.0	2.5Y4/2 細粒砂外混シルト一粘土	中世		
pit	48	地山上部	C地区	円形	29.0	36.0	30.0	5 Y4/1 細粒砂混シルト一粘土	中世		
pit	49	地山上部	C地区	横円形	40.5	46.5上	7.0	5 Y4/1 細粒砂混シルト一粘土	中世	土解器 微生物	陶
pit	50	地山上部	C地区	横円形	40.0	29.0	11.0	5 Y3/1.5 中粒帶一無機物外混シルト	中世		
pit	51	地山上部	C地区	円形	43.0	39.0	22.0	2.5Y4/1 細粒砂混シルト	13世紀	瓦砾 土解器 微生物	陶
pit	52	地山上部	C地区	円形	12.0	11.0	11.0	10Y3/1 無機物外混シルト	中世		
pit	53	地山上部	C地区	円形	21.0	35.0	7.0	10Y3/1 無機物外混シルト	中世	瓦砾 土解器	陶
pit	54	地山上部	C地区	円形	16.0	15.0	17.0	5 Y3/1 細粒砂混シルト	中世	瓦砾 土解器	陶
pit	55	地山上部	C地区	横円形	25.0	19.0	18.0	2.5Y3/1.5 無機物外混シルト	中世	瓦砾 土解器 微生物	陶
pit	56	地山上部	C地区	円形	8.0	7.0	15.0	10Y4/2/2 シルト一粘土	中世		
pit	57	地山上部	C地区	円形	14.0	14.0	20.0	10Y4/2/2 シルト一粘土	中世		
pit	58	地山上部	C地区	円形	9.0	9.0	8.0	10Y4/2/1 細粒砂混シルト	中世		
pit	59	地山上部	C地区	円形	23.0	21.0	21.0	10Y4/2/1 細粒砂混シルト	中世	瓦砾 土解器	陶
pit	60	地山上部	C地区	円形	31.0	36.0	25.0	5 Y3/1 細粒砂混シルト一粘土	中世	瓦砾 土解器	陶
pit	61	地山上部	C地区	横円形	31.5	38.0	21.0	2.5Y3.5/2 細粒砂混シルト一粘土	中世	土解器 微生物 微生物	陶
pit	62	地山上部	C地区	円形	8.0	11.0	5.0	2.5Y3.5/2 無機物外混シルト一粘土	中世	瓦砾	陶
pit	63	地山上部	C地区	円形	16.0	19.0	3.0	5 Y3/1 シルト一粘土	中世	微生物	
pit	64	地山上部	C地区	円形	16.0	16.5	3.5	5 Y3/1 シルト一粘土	中世		
pit	65	地山上部	C地区	円形	9.0	9.5	6.0	2.5Y3.5/2 半粒砂混シルト一粘土	中世		
pit	66	地山上部	C地区	横円形	73.0	67.0	62.0	2.5Y3.5/2 無機物外混シルト一粘土	中世	瓦砾 土解器 微生物 微生物	陶

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

監視番号	番号	施用面	位置	平成形	東西(m)	南北(m)	深さ(m)	種 土	特 性	種 類	特 徴
pit.	67	地山上部	C地区	円形	18.0	32.0	6.0	5.Y4/1 中粒砂混シルト～粘土	中粒	瓦砾 土砂等 植生等 微生物 石礫等	純
pil.	68	地山上部	C地区	円形	8.0	9.0	15.0	5.Y3.5/1 粘粒砂混シルト～粘土	中粒	土砂等 植生等	サスカイト青
pil.	69	地山上部	C地区	円形	12.0	11.0	30.0	5.Y3.5/1 粘粒砂混シルト～粘土	中粒	土砂等 植生等	
pil.	70	地山上部	C地区	椭円形	25.0	21.0	2.5	7.5Y3.5/1 粘粒砂混シルト～粘土	中粒		
pil.	71	地山上部	C地区	椭円形	12.0	15.0	5.0	2.5Y4.5/1 粘粒砂混シルト～粘土	中粒		
pil.	72	地山上部	C地区	円形	28.0	30.0	32.0	2.5Y4/2 中粒砂混シルト～粘土	中粒	瓦砾 土砂等 植生等 土類名	純 無 重 十輪
pil.	73	地山上部	C地区	方形	20.0	19.0	10.0	2.5Y4.5/1 シルト	中粒	瓦砾	純
pil.	74	地山上部	C地区	円形	27.0	28.0	26.0	2.5Y4.5/1 シルト	中粒	瓦砾 土砂等 植生等	純 無
pil.	75	地山上部	C地区	円形	17.5	16.0	11.5	2.5Y4.5/1 シルト	中粒	植生等	
pil.	76	地山上部	C地区	椭円形	17.0	25.0	5.0	2.5Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒	瓦砾 土砂等 植生等	純 無
pil.	77	地山上部	C地区	椭円形	30.5	30.0	21.0	2.5Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒	瓦砾 土砂等 微生物	
pil.	78	地山上部	C地区	円形	27.5	27.0	3.0	2.5Y4.5/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒	土砂等	
pil.	79	地山上部	C地区	円形	21.0	23.0	24.0	2.5Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒		
pil.	80	地山上部	C地区	椭円形	27.0	46.0	6.5	2.5Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒		
pil.	81	地山上部	C地区	円形	27.0	30.0	51.0	2.5Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒	瓦砾 土砂等	純
pil.	82	地山上部	C地区	円形	13.0	13.0	3.0	2.5Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒		
pil.	83	地山上部	C地区	円形	47.0	52.0	35.0	2.5Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	辺境化	瓦砾 土砂等 陶器	純
pil.	84	地山上部	C地区	椭円形	10.0	7.0	6.0	2.5Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒		
pil.	85	地山上部	C地区	椭円形	33.0	20.0	17.0	2.5Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒	瓦砾 土砂等 微生物	純 無
pil.	86	地山上部	C地区	円形	36.0	36.0	19.0	19Y3.5/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒	瓦砾 土砂等	純 無
pil.	87	地山上部	C地区	円形	22.0	25.0	29.0	5.Y4/1 中粒砂混粘粒等～粘粒砂混シルト	中粒	瓦砾 土砂等	純 無
pil.	88	地山上部	C地区	円形	3.0	3.0	9.5	2.5Y4/2 シルト	中粒		
pil.	89	地山上部	C地区	円形	4.0	5.0	8.5	2.5Y4/2 シルト	中粒		
pil.	90	地山上部	C地区	円形	3.0	3.0	19.0	2.5Y4/2 シルト	中粒		
pil.	91	地山上部	C地区	椭円形	30.0	31.0	45.0	2.5Y3/2 粘粒砂～シルト	中粒	瓦砾 土砂等	純 無

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

埋蔵遺物名	番号	検出層	位置	平面形	実測径(cm)	南北長(cm)	深さ(cm)	性質	土	分類	種類	古	代
pit	92	地山上部	D地区	円形	16以上	31.0	11.5	2.5Y3.5/1	麻糸紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	93	地山上部	C地区	方形	30.0	27.0	21.5	2.5Y3/1	中粒砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	94	地山上部	C地区	円形	3.0	3.0	8.0	2.5Y3/1	織紋砂漠シルト	中世			
pit	95	地山上部	C地区	円形	3.0	3.0	13.5	2.5Y4/2	シルト	中世			
pit	96	地山上部	C地区	円形	3.0	4.0	20.0	2.5Y3/1	織紋砂～中粒砂漠シルト	中世			
pit	97	地山上部	C地区	円形	19.0	21.0	11.5	2.5Y4/1,1	牛糞紋砂漠シルト	中世	瓦器	陶	至
pit	98	地山上部	C地区	円形	16以上	13.0	2.5	5Y3/1	麻糸紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	99	地山上部	C地区	円形	24.5	23.5	28.0	2.5Y3.5/1	中粒砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	100	地山上部	C地区	円形	4.0	5.0	11.5	2.5Y3/1	織紋砂漠シルト	中世			
pit	101	地山上部	C地区	円形	11.0	11.0	6.0	5Y3/1	牛糞紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	102	地山上部	C地区	橢円形	23.0	18.0	35.0	5Y3/1	粗粒砂～少粒砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	103	地山上部	C地区	円形	17.5	16.0	22.0	5Y3.5/2	麻糸紋砂漠シルト～粘土	14世紀	土灰器	陶	至
pit	104	地山上部	C地区	円形	33.0上	39.0	12.0	5Y3/1	麻糸紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	105	地山上部	C地区	円形	7.0	9.0	15.0	5Y3/1	麻糸紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	106	地山上部	C地区	円形	23.0	22.5	22.0	2.5Y3/2	織紋砂～中粒砂漠シルト～粘土	中世			
pit	107	地山上部	C地区	円形	22.0	22.0	22.0	5Y3/1	中粒砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世	土灰器	陶	至
pit	108	地山上部	C地区	円形	52.0	45.0	36.0	2.5Y3/1	中粒砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	109	地山上部	C地区	円形	14.5上	16.5	16.0	2.5Y3/1.5	中粒砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世	土灰器		
pit	110	地山上部	C地区	円形	23.0	22.0	17.0	2.5Y3/1	中粒砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	111	地山上部	A地区	円形	16.0上	25.0	15.0	2.5Y3/1	織紋砂漠シルト～粘土	中世	土灰器	陶	至
pit	112	地山上部	D地区	円形	6.0上	12.5	16.0	5Y3/2	麻糸紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	113	地山上部	D地区	円形	9.0	11.0	11.0	2.5Y3/2	麻糸紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	114	地山上部	D地区	円形	28.0	32.0	9.0	2.5Y3/2	織紋砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	115	地山上部	D地区	橢円形	23.5	34.0	4.0	2.5Y3/2	織紋砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	116	地山上部	D地区	橢円形	27.0	36.0	21.0	2.5Y3/1	織紋砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	117	地山上部	D地区	円形	26.0	30.0	32.0	2.5Y3/2	織紋砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	118	地山上部	D地区	円形	17.0	14.0	18.0	2.5Y3/1	中粒砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	119	地山上部	D地区	円形	8.0	9.5	11.0	2.5Y3/2	織紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	120	地山上部	D地区	円形	10.0	10.0	13.0	2.5Y3/2	織紋砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	121	地山上部	D地区	円形	26.5	27.5	15.0	2.5Y3/2	織紋砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世	瓦器	陶	至
pit	122	地山上部	D地区	橢円形	34.0	19.5	24.0	2.5Y3/2	中粒砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	123	地山上部	D地区	円形	33.5	29.0	11.0	2.5Y3/2	中粒砂～織紋砂漠シルト～粘土	中世	土灰器	陶	至
pit	124	地山上部	D地区	円形	10.0	13.0	27.0	2.5Y3/2	麻糸紋砂漠シルト～粘土	中世			
pit	125	地山上部	D地区	橢円形	28.5	33.5	22.0	2.5Y3/1	織紋砂漠シルト～粘土	14世紀	瓦器	陶	至

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

監視箇所	番号	検査面	位置	平面図	南北(m)	東西(m)	深さ(m)	種	土	時期	種類	形	様
p10	125										土壤部	風	
p10	126	龜山上面	D地区	円形	10.0	2.0	1.5	2.5Y4/2	亜熱帯砂漠シルト～粘土	13世紀			
p10	127	龜山上面	D地区	円形	14.0	14.0	2.5	2.5Y4/2	亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世			
p10	128	龜山上面	D地区	圓円形	17.0	23.0	2.0	2.5Y4/1.5	中粒砂～亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世			
p10	129	龜山上面	D地区	円形	22.0	24.0	3.0	2.5Y4/1.5	亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世			
p10	130	龜山上面	D地区	円形	10.0	2.0	22.0	2.5Y4/2	亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世	土壤部		
p10	131	龜山上面	D地区	圓円形	19.0	34.0	4.0	2.5Y4/1.5	中粒砂～亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世	微生物		
p10	132	龜山上面	D地区	圓円形	31.5	26.0	29.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世	土壤部		
p10	133	龜山上面	D地区	円形	18.0	14.5	14.0	2.5Y3/2	中粒砂～亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世			
p10	134	龜山上面	D地区	圓円形	22.0	28.0	35.0	2.5Y4/1.5	亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世			
p10	135	龜山上面	D地区	圓円形	10.0	20.0	3.0	2.5Y4/1.5	亜熱帯砂漠シルト	中世			
p10	136	龜山上面	D地区	圓円形	19.0	16.0	11.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世			
p10	137	龜山上面	D地区	円形	8.0	10.0	12.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	138	龜山上面	D地区	円形	11.0	11.0	3.0	2.5Y3/1.5	亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世			
p10	139	龜山上面	D地区	圓円形	36.0	28.0	13.0	2.5Y4/1.5	亜熱帯砂漠シルト～粘土	中世	微生物		
p10	140	龜山上面	D地区	圓円形	12.0	14.0	25.0	2.5Y3/2	中粒砂～粘土	中世	土壤器	重	
p10	141	龜山上面	D地区	円形	19.0	19.0	10.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	142	龜山上面	D地区	円形	20.0	22.0	20.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	143	龜山上面	D地区	円形	28.0	28.0	27.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	144	龜山上面	D地区	円形	29.0	16.0	15.0	2.5Y4/1	中粒砂～粘土	中世	瓦砾	塊	
p10	145	龜山上面	D地区	円形	8.0	10.0	20.0	2.5Y4/1.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	146	龜山上面	D地区	圓円形	23.0	17.0	22.0	2.5Y3/1.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	147	龜山上面	D地区	圓円形	23.0	27.0	20.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	148	龜山上面	D地区	圓円形	15.0	22.0	13.0	2.5Y4/1.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	149	龜山上面	D地区	圓形	9.5	10.0	12.0	2.5Y4/1.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	150	龜山上面	D地区	圓形	14.0	9.0	4.0	2.5Y3/1.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	151	龜山上面	D地区	方形	28.0	27.0	7.0	2.5Y4/1.5	中粒砂～粘土	中世	土壤器		
p10	152	龜山上面	D地区	円形	33.0	22.0	3.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世	土壤器		
p10	153	龜山上面	D地区	円形	12.0	12.0		2.5Y4/2.5	中粒砂～粘土	中世	瓦砾	輕	
p10	154	龜山上面	D地区	圓円形	14.5	18.0	2.5	2.5Y3/2	中粒砂～粘土	中世	微生物		
p10	155	龜山上面	D地区	円形	20.0	21.0	15.0	2.5Y3/2	中粒砂～粘土	中世			
p10	156	龜山上面	D地区	圓形	5.5	5.5	9.0	2.5Y3/2	中粒砂～粘土	中世			
p10	157	龜山上面	D地区	圓形	13.5	10.0	11.0	2.5Y4/2.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	158	龜山上面	D地区	圓形	10.5	10.0	14.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	159	龜山上面	D地区	圓形	14.5	17.5	2.0	2.5Y3/2	中粒砂～粘土	中世			
p10	160	龜山上面	D地区	圓形	12.5	13.5	15.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	161	龜山上面	D地区	円形	16.0	15.0	13.0	2.5Y2.5/2	中粒砂～粘土	中世	土壤器	陶器	
p10	162	龜山上面	D地区	圓円形	24.0	20.0	26.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世	土壤器	陶器	
p10	163	龜山上面	D地区	圓円形	23.0	27.0	27.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世	土壤器		
p10	164	龜山上面	D地区	圓形	15.0	15.0	3.0	2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世			
p10	165	龜山上面	D地区	圓円形	23.0	29.0	34.0	2.5Y3/2	中粒砂～粘土	中世			
p10	166	龜山上面	C地区	圓形	13.0	12.0		2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世	瓦砾		
p10	167	龜山上面	C地区	圓形	12.0	12.0		2.5Y3/2	中粒砂～粘土	中世			
p10	168	龜山上面	C地区	圓円形	17.0	1ML上		2.5Y3/2.5	中粒砂～粘土	中世			

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

井戸番号	番号	機川川	位置	平野部	標高(m)	水位(m)	溝さ(cm)	層	土	時期	種類	基
pH	161	馬山上原	C地区	鶴内沢	36.0	38.2上		2.5Y3/2 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世	瓦器 土器器	陶 瓦
pH	170	馬山上原	C地区	円沢	32.0	27.0		2.5Y3/1.5 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世		
pH	171	馬山上原	C地区	円沢	3.0	6.0		2.5Y3/2 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世		
pH	172	馬山上原	C地区	円沢	14.0	13.0		2.5Y3/2 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世		
pH	173	馬山上原	C地区	円沢	29.0	33.1上		2.5Y2/1 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世	器皿土器	
pH	174	馬山上原	D地区	円沢	31.0	40.0		10YR5/6 シルト～粘土		中世		
pH	175	馬山上原	D地区	円沢	42.0	49.0		5 Y3/3.5/1 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世		
pH	176	馬山上原	D地区	円沢	28.0	34.0		2.5Y3.5/1 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世	瓦器 土器器	陶 瓦
pH	177	馬山上原	D地区	円沢	11.0	14.0		2.5Y4/2 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世		
pH	178	馬山上原	D地区	円沢	16.0	16.5		2.5Y3.5/3 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世		
pH	179	馬山上原	D地区	円沢	72.0	49.0		10YR4/6 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世	瓦器 土器器 埴輪	陶 瓦
pH	180	馬山上原	D地区	鶴内沢	25.0上	22.0上	5.0	2.5Y3/2.5 鹿鳴松抄泥粘土		中世		
pH	181	馬山上原	D地区	円沢	20.0	21.0	5.0	2.5Y3/2.5 鹿鳴松抄泥粘土		中世		
pH	182	馬山上原	C地区	円沢	10.0	28.5				中世		
pH	183	馬山上原	D地区	円沢	35.0	7.5				中世		
井戸	1	馬山上原	B地区	鶴内沢	220.0	112以上	482.0	7.5Y3/2 鹿鳴松抄泥シルト～粘土 10Y3/1 鹿鳴松抄泥シルト～粘土 7.5Y4/1 中粒砂泥シルト～粘土 7.5Y4/1 中粒砂泥粘土	15世紀	瓦器 土器器 埴輪器	陶 瓦 瓦	
井戸	2	馬山上原	B地区	鶴内沢	276.0	138.0	438.0	2.5Y4/2 瓦～鹿鳴松抄泥シルト～粘土 2.5Y3/2 瓦～鹿鳴松抄泥シルト～粘土 2.5Y3/3 瓦～鹿鳴松抄泥シルト～粘土 2.5Y4/2 瓦～鹿鳴松抄泥シルト～粘土 5 Y3/1 鹿鳴松抄泥シルト～粘土 2.5Y3/1 鹿鳴松抄泥シルト～粘土 5 Y4/1 中粒砂泥シルト～粘土 3 Y4/1 鹿鳴松抄泥シルト 3 Y3/1 鹿鳴松抄泥シルト～粘土 10Y3/3 瓦～鹿鳴松抄泥シルト～粘土 5 Y4/1 瓦～中粒砂泥シルト～粘土 10Y4/1 鹿鳴松抄泥シルト	15世紀	瓦器 土器器 埴輪器 瓦 瓦 瓦器 金属製品 包装品 瓦器 瓦 本物品 漆器 金属製品 包装品 瓦器 瓦	陶 瓦 瓦 瓦 瓦 漆器 金屬 包装 瓦 本物 漆器 金屬 包装 瓦	
井戸	3	馬山上原	C地区	鶴内沢	120.0	102.0	424.0			14世紀	瓦器 土器器	陶 瓦
井戸	4	馬山上原	D地区	円沢	127.0	64以上		5 Y2/2 瓦～鹿鳴松抄泥シルト～粘土 7.5Y2/1 鹿鳴松抄泥シルト～粘土		中世	瓦器 土器器	陶

第6表 雨／汎連路第30次調查遺體一覽表

登録番号	番号	権利面積	面積	平地率	耕種地(ha)	未耕種地(ha)	灌漑面積(ha)	灌漑率(%)	地	土	母層	種類	形
井戸	4								5.YZ/1 シルトー粘土 7.SY1/1 4002秒流シルトー粘土 7.SY1/2 シルトー粘土			陶器	
井戸	5	地上上部	D地区	権利面積	164.11	1.1	883.1	472.0	2.SY1/2 細粒粘土沙泥シルト 2.SY4/2 粘粒沙泥シルトー粘土 5.YB/2 粘一粗粒粘土沙泥シルトー粘土	中堅	瓦砾 土砂岩 陶器 未製品 鉱物	瓦砾 土砂岩 陶器 未製品 鉱物	複数 複数
井戸	7	地上上部	C地区	地形	1323.1上	3433.1			2.SY4/1 ウレ-粘粒粘土沙泥シルト 2.SY3/2 ウレ-粘粒粘土沙泥シルト 2.SY4/1 粘-粘粒粘土沙泥シルト 5.YB/1 大理混シルト 2.SY4/1 ウレ-粘粒粘土沙泥シルトー粘土	12世紀	瓦砾 土砂岩 陶器 瓦 砂水土器 石製品	複数 瓦 瓦 瓦 瓦	複数 瓦 瓦 瓦 瓦
井戸	6	地上上部	C地区	地形	2804.1上	1804.1上			2.SY4/1 粘粒沙-細粒粘土沙泥シルト 2.SY4/2 ウレ-粘粒粘土沙泥シルト 2.SYR2/2 ウレ-粘粒粘土沙泥シルト 5.YR3/1 ウレ-粘粒粘土沙泥シルト 5.YR3/2 シルト混明-粘粒粘土 7.SYR3/2 シルト混明-粘粒粘土 7.SYR3/2 シルト混明-粘粒粘土 7.SYR4/2 シルト混明-粘粒粘土 7.SYR4/1 粘-粘粒粘土沙泥シルト 7.SYR5/2 中-粘粒粘土沙泥シルト 5.YR3/2 ウレ-粘粒粘土沙泥シルト 2.SY4/1 中-粘粒粘土沙泥シルト 2.SY3/2 ウレ-粘粒粘土沙泥シルト 2.SY4/2 ウレ-粘粒粘土沙泥シルト 12Y4/4/4 ウレ-粘粒粘土沙泥シルト	12世紀			
土壤基	1	地上上部	C地区	権利面積	116.0	58.5	24.5		2.SY3.5/2 粘粒粘土沙泥シルトー粘土	中堅			
土	1	地上上部	B地区		13901.1上	42.0	37.0		2.SY3/2 大理-中粘粒粘土沙泥シルト	14世紀	瓦砾 土砂岩 瓦砾 陶器 瓦 砂水土器	複数 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦	複数 瓦 瓦 瓦 瓦 瓦
土	2	地上上部	B地区		49.5	8731.1	6.0		10YR2/2.5 大理-中粘粒粘土シルト	中堅			
土	3	地上上部	B地区		1160.0	32.5	6.5		10YR4/2 粘粒粘土沙泥シルト	中堅	土砂岩 瓦砾	複数 瓦砾	
土	4	地上上部	B地区		362.5	242.5	19.5		2.SY3/2 中粘粒-粘粒粘土沙泥シルト	中堅	瓦砾 土砂岩 陶器	瓦砾 瓦砾 瓦砾	瓦砾 瓦砾
土	5	地上上部	B地区		276.0	12.0	13.0		3.Y3/1 中粘粒-粘粒粘土沙泥シルト	中堅			
土	6	地上上部	C地区		170.0	8371.1	54.0		10YR3/1 粘粒粘土-中粘粒粘土沙泥シルトー粘土	15世紀	瓦砾 土砂岩 瓦砾 陶器 瓦	複数 瓦砾 瓦砾 瓦砾 瓦	複数 瓦砾 瓦砾 瓦砾 瓦

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覽表

測量番号	番号	地名	位置	平均高(m)	最高点(m)	最低点(m)	深さ(m)	地 土	時期	種 類	基 準
1	1	海面上面	C地区	167.523上	51.0	8.0	2.5Y3/1.5 植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	海生土層 土層 紅泥層		
2	2	海面上面	C地区	270.0	29.0	55.0	2.5Y4/2.5 植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	瓦器 土層 紅泥層	純 埋り糞	
3	3	海面上面	C地区	71.0	31.0	2.5	2.5Y4/2.5 植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世			
4	4	海面上面	C地区	126.0	34.0	12.0	2.5Y3/1.5 S-植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	土層 紅泥層		
5	5	海面上面	D地区	56.0	87.0上	7.5	5 Y3/2 植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	瓦器 土層 紅泥層 磁器	純 火炎 灰 灰	
6	6	海面上面	D地区	42.5	90.0	18.0	2.5Y3/2.5 植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	瓦器 土層 紅泥層 金屬製品	純 埋り糞 灰 灰層	
7	7	海面上面	D地区	425.0	79.0上	90.0	2.5Y3/1.5 中粒沙-細粒砂混シルトー粘土	15世紀	瓦器 土層 紅泥層 陶器 磁器 瓦 灰 火炎 灰 灰 金屬製品 灰 石製品 土製品 軽便瓦	瓦器 火炎 灰 灰 青磁碗 灰 灰 火炎 灰 灰 金屬製品 灰 石製品 土製品 軽便瓦	瓦器 火炎 灰 灰 青磁碗 灰 火炎 灰 灰 金屬製品 灰 石製品 土製品 軽便瓦
8	8	海面上面	D地区	72.5	49.0上	22.0	2.5Y3/2 小粒沙-細粒砂混シルトー粘土	中世	土層 瓦		
9	9	海面上面	D地区	208.0上	24.0上	8.5	2.5Y3/2.5/2 大粒-植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	瓦器 土層 瓦	純 埋り糞 灰 灰	
10	10	海面上面	D地区	22.0	43.0上	6.5	2.5Y4/2.5 植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	瓦器 土層 紅泥層 磁器	純 灰 灰 青磁碗	
11	11	海面上面	D地区	23.0	78.0上	3.0	2.5Y4/2.5 植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	瓦器 七脚 七脚	純	
12	12	海面上面	D地区	324.523上	128.533上	2.5	2.5Y3/2 植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	土層 瓦		
13	13	海面上面	D地区	324.533上	37.0	8.5	2.5Y3/2.5 植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	中世	土層 瓦 灰 灰 青磁碗		
14	14	海面上面	D地区	590.0上	225.0	94.0	2.5Y3/2 黑褐色-澱粉分厚シート 3 Y3/1.4 リーフ状泥シルトー粘土	近生	海生土層 石製品 鐵骨	黑 鹽 鹽	
15	15	海面上面	D地区	220.0	80.0上	30.0		海生	石製品	石	
16	16	海面上面	A地区	395.0	195.0	47.0	10 Y2.5/2 小粒沙-植物豊富な砂利地帯シルトー粘土	14世紀	瓦器 土層 紅泥層	純 灰	

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査造構一覧表

番号	地名	位置	平均高(m)	最高高(m)	最低高(m)	地	理	地質	地
土壤	1							砂質 粘土 砂質 粘土 砂質 粘土	青垣 白楊 角 平丘 丘陵
土壤	2	地上山田	A地区	鶴岡町	60.0	21.50上	1.5	2.5Y3/2 中粒帶—細粒砂質シルト	中粒
土壤	3	地上山田	B地区	長万部	79.5	34.0	22.0	3Y3/1 粗粒砂帶—中粒砂質シルト 壤土を含む	中粒 上層部
土壤	4	地上山田	B地区	鶴岡町	75.0	64.50上	18.0	2.5Y3/1.5 粗粒砂帶—細粒砂質シルト—粘土	中粒
土壤	5	地上山田	B地区	鶴岡町	79.0	22.0上	4.0	2.5Y3.5/2 中粒帶—細粒砂質シルト—粘土	中粒
土壤	6	地上山田	B地区	長万部	43.0	81.5	6.0	2.5Y4.5/1.5 粗粒砂帶—細粒砂質シルト	中粒
土壤	7	地上山田	C地区	鶴岡町	167.5	60.50上	2.0	2.5Y3/2 細粒砂質シルト—粘土	中粒 土壌带 砂質带 洪积土带
土壤	8	地上山田	C地区	円形	125.0	115.0上	8.0	2.5Y3.5/1 中粒帶—細粒砂質シルト—粘土	凸墳 土壌带 粗粒带 上层
土壤	9	地上山田	C地区	円形	66.0	45.0上	5.5	2.5Y4/1 粗粒砂帶—シルト	中粒 瓦砾 土壌带 洪积土带
土壤	10	地上山田	C地区	円形	72.5	37.0	5.5	5Y4/2 黑腐軟泥混シルト	中粒
土壤	11	地上山田	C地区	円形	96.0	104.0	10.0	2.5Y4/1 粗粒帶—中粒砂質シルト—粘土	中粒 瓦砾 上层带 粗粒带 洪积土带
土壤	12	海上山田	C地区	鶴岡町	108.0上	25.0上	3.5	2.5Y3/1.5 中粒帶—細粒砂質シルト—粘土	中粒 瓦砾 土加厚 粗粒带
土壤	13	海上山田	D地区	鶴岡町	127.0	131.5		2.5Y3/1.5 細粒砂質シルト—粘土	中粒 瓦砾 土壌带 粗粒带 洪积
土壤	14	海上山田	D地区	鶴岡町	48.0	70.0上	23.0	10YR2/1 黑腐帶—細粒砂質シルト—粘土	中粒 青垣土带
土壤	15	海上山田	D地区	万葉	62.0	88.0	7.0	10YR3/2.5 黑腐砂質シルト—粘土	中粒
土壤	16	海上山田	D地区	万葉	114.50上	73.0上	47.0	2.5Y3.5/2 細粒砂質シルト—粘土	物生 洪生土带 黑腐
土壤	17	海上山田	C地区	万葉	100.0	96.0上		2.5Y3/2 細粒砂質シルト—粘土	物生 青垣土带
落ち込み	1	地上山田	E地区		340.0	460.0	48.0	10YR4/1 黑腐色細粒粘土—シルト 10YR5/1 黑腐色—細粒砂質シルト 2.5YS/1 黃褐色細粒砂質シルト 2.5YS/1 實灰化帶—細粒砂質シルト 10YR4/1 黑腐色細粒砂質シルト	谷堆—物生 土壌带 粗粒带 上层 洪积土带 石砾带 砂砾带 土砾带

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覽表

西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

番号	層位	出土場所	出土層位	種類	形態	大きさ	地質	色調	特徴					備考	
									外縁外側	外縁内側	底縁外側	底縁内側	外縁内側	底縁内側	
001 第9回 調査18	井戸附	土器部	昌	口径 0.4 高さ 1.2 蓋あり・くたり 縁を含む	0.5m以下の長 石	ヨウジ	ヨコナゲ	不調和	ヨコナゲ	ナゲ					
002 第9回 調査19	井戸附	瓦器	井戸附	直径 3.2		N6/灰白色		ヘラキズ		ヨコナゲ	緑の色調は HCGY6/1 基礎色 他の範囲は黄白の内外底および先端内面				
003 第9回 調査20	井戸附	瓦器	花瓶	直径 9.0		N6/灰白色		赤切り		ヨコナゲ	緑の色調は HCGY6/2 オリーブ灰色 他の範囲は底然所留のみ				
004 第9回 調査21	井戸附	瓦器	桶り鉢	口径 22.0 高さ 1.5	1m以下の長 石を含む	EB5/1 海藻色	無力向左上内 ハケメ	ヨコナゲ スリ目は 2巻1巻 笠	ナゲ		内面は使用により予想化 スリ目の配置は底上直張 作成技術に揮付着				
005 第9回	井戸附	瓦器	桶り鉢	直径 30.0	1m以下の長 石を含む	N6/灰白色		ナゲ	ナゲ	ナゲ	内外面とも基底面は黒或 スリ目は透明白背景				
006 第9回 調査22	井戸附	瓦器	桶り鉢	口径 30.0 高さ 1.5	0.5m以下の長 石・沿石粘 不含む	N6/灰白色	ヨコナゲ ヘラキズ	ヨコナゲ リ	ハケメ	ヨコナゲ	1脚標印片11 スリ目の配置は底上直張 口縁周内面に揮付着				
007 第9回 調査23	井戸附	陶器	桶り鉢	口径 30.0 高さ 8.0 底径 14.0	2-1mmの長 石・沿石粘 不含む	N6/灰白色 に近い褐色	ヨコナゲ ヨコナゲ 不調和	ヨコナゲ ヨコナゲ ヨコナゲ	スリ目は 7巻1巻 笠	ヨコナゲ	重厚感の食器有り スリ目の配置は底上直張				
008 第9回 調査24	井戸附	第4号	瓦	新干瓦		1-0.5mmの長 石・角内石 ・縁を含む	EB5/1 灰					表裏文 模様、60と同様、61と同様			
009 第9回	井戸附	石器部	石器	長 12.1 中 6.2 厚 3.9								軽肉			
010 第9回 調査25	井戸附	陶器	直壁	長 18.0 中 4.6 厚 0.8											
011 第9回 調査26	井戸附	木製品	木製品	直径 14.3 幅 12.5 厚 0.5								ヒノキ製の一塊			

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告書 番号	月日	出土遺物	出土部位	種類	形態	量	地 土	色 調	特 長					備 考	
									口縁部外側	体感外側	底部外側	口縁部内側	体感内側	底部内側	
012 第3回 回数3	8月20日	木製品	8号E	直径	14.5	厚 0.8									ヒノキ属の一例
013 第3回 回数3	8月20日	木製品	8号E	直径	15.3	粗目 15.1									ヒノキ属の一例
014 第3回 回数3	8月20日	木製品	8号E	直径	10.3	市 2.8									マツ葉海藻殻亞属の一例 刃状純形(0.8m, 0.5m, 0.5m), 刃状は長
015 第3回 回数3	8月20日	木製品	8号E	残存部	8.0	市 2.8									コナラ属アカガシ葉質の一例
016 第3回 回数3	8月20日	木製品	8号E	残存部	5.8	市 1.9									シイ属の一例
017 第3回 回数3	8月20日	第5層	土塗器	直	口径 8.0	0.5m以下の 器高 1.8 瓦石 - 磐石 - くさり繩を含 む	1.5m以下の 瓦石 - 磐石 - くさり繩を含 む	ミコナデ	不規則	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ナデ
018 第3回 回数3	8月20日	第5層	土塗器	直	口径 8.0	0.5m以下の くさり繩 - 瓦 石 - 磐石を含 む	0.5m以下の くさり繩 - 瓦 石 - 磐石を含 む	ミコナデ	不規則	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	
019 第3回 回数3	8月20日	第5層	土塗器	直	口径 8.0	0.5m以下の 器高 2.0 瓦石 - 磐石 - くさり繩を含 む	0.5m以下の くさり繩 - 瓦 石 - 磐石を含 む	ミコナデ	不規則	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ナデ 口縁部の切入が美しい
020 第3回 回数3	8月20日	第5層	土塗器	直	口径 8.0	0.5m以下の 器高 2.1 くさり繩 - 瓦 石を含む	0.5m以下の くさり繩 - 瓦 石を含む	ミコナデ	不規則	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	
021 第3回 回数3	8月20日	第5層	土塗器	直	口径 8.0	0.5m以下の 器高 2.4 瓦石 - 磐石 - くさり繩を含 む	0.5m以下の 瓦石 - 磐石 - くさり繩を含 む	ミコナデ	不規則	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ナデ 口縁部の切入が美しい
022 第3回	8月20日	第5層	土塗器	直	口径 10.0	0.5m以下の くさり繩 - 瓦 石を含む	0.5m以下の くさり繩 - 瓦 石を含む	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	ミコナデ	

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告書 番号	層位	出土遺物	出土層位	種類	形態	法量	地土	色調	特長					備考	
									口縁部外面		体部外面		底盤外面		
									ココナツ	ナゲ	ココナツ	ナゲ	ココナツ	ナゲ	
023 第12回 回数21	井戸B2	表1層	土壌層	土	1層 127.5cm 良石を含む	0.5m以下 淡褐色	2.5YR/3	ココナツ ナゲ			ココナツ ナゲ				
024 第12回 回数22	井戸B2	表1層	瓦層	板	1層 13.5cm 基層 2.0cm 石・くき石層 良石 を含む	1mm以下	1.5S/1 黒	ココナツ		ユビキサ	ココナツ	ナゲ	ナゲ	ハラミガ ナ	
025 第12回 回数23	井戸B2	表6層	無定形	板状	1層 121.0cm 1.0m以下 ヤード 0.5cm m以下 の良石 ・無定形を含 む	1mm以下	3.0R/1 黒	ココナツ	ココナツ		ココナツ	ココナツ		丸瓦、板瓦によく平直	
026 第12回 回数24	井戸B2	表6層	無定形	板状	1層 121.0cm 1.0m以下 ヤード 0.5cm m以下 の良石 ・無定形を含 む	1mm以下	3.0R/1 黑	ココナツ	ココナツ		ココナツ	ココナツ		丸瓦、板瓦によく平直 凸面構造あり、西面有目耳	
027 第12回 回数25	井戸B2	表6層	無定形	板状	1層 121.0cm 1.0m以下 ヤード 0.5cm m以下 の良石 ・無定形を含 む	1mm以下	3.0R/1 黑	ココナツ							
028 第12回 回数26	井戸B2	土壌層	板	1層 11.0cm 基層 1.0cm 良石を含む	0.5m以下	2.5YR/2 黒	ココナツ		不調査	ココナツ	ナゲ	ココナツの凹みが美しい			
029 第12回 回数27	井戸B2	土壌層	板	1層 11.0cm 基層 1.0cm 良石を含む	0.5m以下	2.5YR/2 黑	ココナツ		ユビキサ	ココナツ	ナゲ	ココナツの凹みが美しい			
030 第12回 回数28	井戸B2	土壌層	板	1層 11.0cm 基層 1.0cm 良石を含む	0.5m以下	2.5YR/2 黑	ココナツ		不調査	ココナツ	ココナツ				
031 第12回 回数29	井戸B2	土壌層	板	1層 10.0cm 基層 1.0cm 良石を含む	0.5m以下 良石を含む	3.5R/2 黑	ココナツ	ユビキサ	ココナツ	ココナツ	ココナツ				
032 第12回 回数30	井戸B2	瓦層	板	1層 12.0cm 基層 3.0cm 良石 2.0cm を含む	0.5m以下 良石を含む	3.5R/2 黑	ココナツ	ユビキサ	ココナツ	ココナツ	ココナツ	ナゲ後退			
033 第12回 回数31	井戸B2	瓦層	板	1層 12.0cm 基層 3.0cm 良石 2.0cm を含む	0.5m以下 良石・黒色板 を含む	3.5R/2 黑	ココナツ	ユビキサ	ココナツ	ココナツ	ココナツ	ナゲ後退			

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

層位名 測量点 番号	層位	出土遺物	出土層位	剖面	標高	法 番	地 土	色 製	特 性					調査号	
									口部内面	体部外面	底部外面	口部内面	体部内面	底部内面	
III															
IV															
IV-1	青戸田	土器	桶	口径 12.4 基高 3.1	1.5m以下の長 石を含む 灰色	5±3/1 壁 底色	ヨコナギ エビセナ ユビセナ ヨコナギ	エ エ エ	横方向の ヘリシガ キ	ヨコナギ ナギ	ナギ	ナギ	ナギ	ナギ	
IV-2	青戸田	土器	瓶	口径 9.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
IV-3	青戸田	土器	瓶	口径 9.0 基高 1.4	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	口底部内部の一帯に裂け目
IV-4	青戸田	土器	瓶	口径 10.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
IV-5	青戸田	土器	瓶	口径 10.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	ユビセナ ヨコナギ	ユビセナ エ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
IV-6	青戸田	土器	瓶	口径 10.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
IV-7	青戸田	土器	瓶	口径 10.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
IV-8	青戸田	土器	瓶	口径 10.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
IV-9	青戸田	土器	瓶	口径 10.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
IV-10	青戸田	土器	瓶	口径 10.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
IV-11	青戸田	土器	瓶	口径 10.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
IV-12	青戸田	土器	瓶	口径 10.0 基高 1.5	1.5m以下 の長 石を含む 灰色	1.5±3/1 壁 底色	ヨコナギ	不溝面	ヨコナギ	ヨコナギ	ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	内側の壊滅らしい ヘリシガ キ
IV-13	青戸田	瓦器	桶	直径 11.9 基高 1.9	0.5m以下の 長石を含む 灰色	5±4/1 壁 底色	ナギ ヨコナギ	ナギ	横方向の ヘリシガ キ	ナギ	ナギ	ナギ	ナギ	ナギ	見込み無 分に格子 網状
IV-14	青戸田	瓦器	桶	直径 11.9 基高 1.9	0.5m以下の 長石を含む 灰色	5±4/1 壁 底色	ナギ ヨコナギ	ナギ	横方向の ヘリシガ キ	ナギ	ナギ	ナギ	ナギ	ナギ	見込み無 分に格子 網状
IV-15	青戸田	瓦器	桶	直径 11.9 基高 1.9	0.5m以下の 長石を含む 灰色	5±4/1 壁 底色	ナギ ヨコナギ	ナギ	横方向の ヘリシガ キ	ナギ	ナギ	ナギ	ナギ	ナギ	見込み無 分に格子 網状

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

件名	番号	出土遺物	出土層位	種類	形態	法量	地土	色調	特　異						備　考
									口部内面	体部外面	底部内面	体部内面	底部内面	底部内面	
243															チブ引の 平行縫合 式
244	第1256 回数21	石碑	瓦	瓦	口徑 15.0	1~0.5mmの 長石を含む 色	切口 黑色	ココナツ	複合的の ヘラカズ リ	複合的の ハナノ模 ハケメ	複合的の ココナツ				瓦上部に穿孔有り 各部外側に縫合部
245	第1257 回数22	石碑	瓦	瓦	径 2.8	0.5mm以下の 長石・角閃石 を含む	切口 黑色	ココナツ							均等な文様、底と同文 頂點カコナツ 瓦ととの複合部分で斜面
246	第1258 回数23	石碑	瓦製品	瓦	長 2.8 中 2.4 厚 2.1										シイ葉の一様
247	第1259 回数23	石碑	瓦製品	瓦	長 17.5 中 2.6 厚 1.4										アリ
248	第1260 回数24	土壤	土質岩	土	口径 17.0	1~0.5mmの くさり礫、0. 5mm以下の長 石・長閃石を含 む	TYR 2/1	ココナツ	ユビキタ ス	ココナツ	ココナツ				着古用或は新しい
249	第1261 回数25	土壤	瓦器	陶土器	口径 10.0	0.5mm以下の 長石・くさり 礫を含む	BS/褐色	左上がり 右ハサメ	ナゲ	スリットは 7条1年 後					内側の摩滅者新しい
250	第1262 回数26	土壤	陶土器	陶土器	口径 14.0	1~0.5mmの 長石・黒色粒 を含む	SYR 6/2	ココナツ	ココナツ	スリットは 1条1年 後					内側は使用により摩滅して薄
251	第1263 回数27	土壤	土質岩	土	口径 7.8 底径 1.4	0.5mm以下の 長石を含む	SYR 6/3	ココナツ	ユビキタ ス	スリットは 1条1年 後					
252	第1264 回数28	土壤	土質岩	土	口径 13.0 底径 2.0	0.5mm以下の くさり礫・石 英を含む	SYR 6/1	ココナツ	ユビキタ ス	ココナツ	ナゲ				昔表面摩滅者新しい
253	第1265 回数29	土壤	土質岩	土	口径 14.0	1~0.5mmの 長石・くさり 礫を含む	SYR 6/1	ココナツ	ナゲ	ココナツ	ココナツ				内面に縫合部
254	第1266 回数30	土壤	土質岩	土	口径 15.0 底径 2.4	1~0.5mmの 長石・石英を 含む	SYR 6/1	ココナツ	ユビキタ ス	ココナツ	ココナツ				12番葉内面の1ヶ所に縫合

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

総合名	層位	出土遺物	出土量	種類	性質	法	土	色調	特長					備考
									口縁部外面	外部外面	底部外面	口縁部内面	外部内面	底部内面
005 第10段 005b2	層0	磁器	考慮	真白(±1.0)			10YR1/2 黄 色		凹把ヘラ キズリ	凸把ヘラ キズリ		ヨコナデ ヨコナデ	ヨコナデ ヨコナデ	角の色調に±5度の範囲 他の範囲に各部外面から真白の内面及び 各部内面全周 割り出し真白
006 第10段 005b3	層0	陶器	考虑	黄	口径 25.0	1 - 0.5mm 黄石を含む	10B G1/1 青灰色	平行タテ キメ浅中 ヨコナデ	平行タテ キメ浅中 ヨコナデ	平行タテ キメ浅中 ヨコナデ		ナデ		
007 第10段 005b3	層0	瓦器	生	口径 20.0	1 - 0.5mm 灰石・チャー トを含む	10Y 3/1 灰白色	10Y 3/1 ヨコナデ	ヨコナデ ヨコナデ		ヨコナデ ヨコナデ	ナデ			齊下部から背面外面に掛ける
008 第10段 005b3	層0	土器	泥	口径 8.0 高さ 1.1	0.5mm以下 灰石・青苔を 含む	5 Y 8/1 灰白色	5 Y 8/1 ヨコナデ		ユビキサ ニ様ナデ			ナデ		口縁部内面の1/2周に掛ける
009 第10段 005b3	層0	土器	風	口径 10.0 高さ 1.1	0.5mm以下の 《さう磧・灰 石を含む	5 Y 8/2 灰白色	5 Y 8/2 ヨコナデ		不規整 ヨコナデ			ナデ		
010 第10段 005b3	層0	土器	風	口径 10.0 高さ 1.3	0.5mm以下の 灰石・《さう 磧を含む	7.5 YR7/6 褐色	7.5 YR7/6 ヨコナデ		不規整 ヨコナデ			ナデ		
011 第10段 005b4	層0	土器	風	口径 10.0 高さ 2.0	0.5mm以下の 青苔・灰石を 含む	7.5 YR8/3 浅黒褐色	7.5 YR8/3 ヨコナデ		ユビキサ ニ様ナデ			ナデ		器表面の摩滅が無い
012 第10段 005b4	層0	陶器	埴輪	口径 10.0	1 - 0.5mm 灰石を含む	2.5 YS3/6 褐色	2.5 YS3/6 ヨコナデ		ナデ ヨコナデ ヨコナデ			ナデ ヨコナデ ヨコナデ		スリットの配置は頂上側面 側面内面は更にによる擦拭で平滑 3条1脚
013 第10段 005b4	層0	土器	風	口径 12.0	1 - 0.5mm 灰石・灰土を 含む	5 Y 7/3 灰褐色	5 Y 7/3 ヨコナデ	裏方向の ヘラ1枚 ヨ	横方向の ヘラ1枚 ヨコナデ	ナデ				裏上面から各部外面、内部全体に掛ける
014 第10段 005b4	層0	瓦器	風	口径 10.0	1 - 0.5mm 灰石・石英・ 黑色斑を含む	10B G1/1 褐色	10B G1/1 ヨコナデ	平行タテ キメ浅中 ヨコナデ 凹凸ナメ ヨ	平行タテ キメ浅中 ヨコナデ ヘラ1枚 ヨ					
015 第10段 005b4	層0	瓦器	風	口径 10.0	0.5mm以下の 灰石・石英・ 黑色斑を含む	5 B G1/1 青灰色	5 B G1/1 ヨコナデ	裏方向の ヘラ1枚 ヨ	裏方向の ヘラ1枚 ヨ	ヨコナデ ナデ				内面は摩滅が無いため調整法不明
016 第10段 005b4	層0	瓦器	大穴	口径 15.0	0.5mm以下の 灰石・石英・ チャートを含 む	5 B G1/1 青灰色	5 B G1/1 ヨコナデ	裏方向の ヘラ1枚 ヨ	裏方向の ヘラ1枚 ヨ	ヨコナデ ナデ				
017 第10段 005b4	層0	瓦器	風	軽平瓦	青苔高さ0.0 現存高さ 5.5									瓦質、生と同質、柄と同文 凸面摩滅のため不明

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

種別名 固有名	層位	底土種類	底土層位	種類	基層	法 量	底 土	色 製	特 性					質
									口縫外因	底部外因	底部内因	口縫内因	底部内因	
627 第1層 頂面	透口			土質品	七所川	高さ 6.3 密度 1.1 厚 2.2 重量 131.7		X10 塗装 色						平瓦を軽用 凸凹を長め 透風性
628 第1層 底面	7442			土質品	底	口縫 8.1 密度 1.5 厚 1.5 重量 1.5m以下 の良好を含む	1mm以下のく き石層・粗粒 0.5mm以下の 良好を含む	2.5YR8/3 浅灰色	ヨコナデ	不調和	ヨコナデ	ナダ		
629 第1層 底面	7442			土質品	底	口縫 8.1 密度 1.6 厚 1.5 重量 1.5m以下の良 好を含む	1mm以下のく き石層・粗粒 0.5mm以下の良 好を含む	2.5YR7/2 浅灰色	ヨコナデ	小異常	ヨコナデ	ナダ	表面の感覚正しい	
630 第1層 底面	7442			瓦	底	口縫 (10.3) 密度 1.5 厚 1.5 重量 1.5 透風を含む	0.5mm以下の 良好を含む	N6(灰色)	ヨコナデ	不調和	ヨコナデ	横方向の ヘリシガ キ		
631 第1層	7442			瓦	底	口縫 (10.3) 密度 1.5 厚 1.5 重量 1.5 透風を含む	0.5mm以下の 良好を含む	N6(灰色)	ヨコナデ	ユビナタ ス直裏方 斜的ヘリ シガキ	横方向の ヘリシガ キ	ナダ		
632 第1層	7442			瓦	底	口縫 (10.3) 密度 1.5 厚 1.5 重量 1.5 透風を含む	1~0.5mの 良好を含む	ST(白色)	ヨコナデ	ナダ	ヨコナデ	ヨコナデ	横方向の ヘリシガ キ	
633 第1層 底面	7442			土質品	底	口縫 8.6 密度 1.3 厚 1.3 重量 1.3 透風を含む	0.5mm以下の 良好を含む	10B G6/1 浅灰色	ヨコナデ	不調和	ヨコナデ	ナダ		
634 第1層 底面	7442			土質品	底	口縫 8.2 密度 1.4 厚 1.4 重量 1.4 透風を含む	0.5mm以下の 良好・良好・ くき石層を含 む	7.5YR8/9 浅灰色	ヨコナデ	不調和	ヨコナデ	ナダ	口縫の凹みが正しい	
635 第1層	7442			土質品	底	口縫 9.0 密度 0.9 厚 0.9 重量 0.9 透風を含む	1~0.5mの 長石・0.5m 以下の良好を 含む	5 YR3/4 に近い褐色	ヨコナデ	ナダ	ヨコナデ	ヨコナデ	表面の感覚正しい	
636 第1層	7442			瓦	底	口縫 (12.2) 密度	0.5mm以下の 長石を含む	3 B G6/1 浅灰色	ヨコナデ	ユビナタ	ヨコナデ	ナダ	横方向の ヘリシガ キ	

第7表 西ノ江遺跡第30次調査出土遺物認定表

発生年 探査年	層位	出土遺物	出土層位	密度	背高	法量	地土	色調	特長						備考	
									口縁部外面	体部外面	底盤外面	口縁部内面	体部内面	底盤内面		
077 第19回 第26回	F1053	瓦器	板	口径 10.0	1~1.5m の 高さを含む	N6(灰色)	ミコナデ ナツカケ	ミコナデ ナツカケ	ミコナデ ナツカケ	ミコナデ ナツカケ	ミコナデ ナツカケ	横方向の 方向のハ リエガキ	見込み器 ハラタガ キ	見込み器 ハラタガ キ	既存ヘラ起号名器	
078 第20回 第25回	F1072	土製品	土器	残存高 3.5	0.5m以下の 外径 1.1	10YR5/1 角閃石・長石 に占比重 内径 0.2	10YR5/1 角閃石・長石 に占比重 全高 4.3									
079 第20回 第25回	F1049	土製品	残存	外径 2.0											至適火窯	
080 第20回 第26回	遺20	陶土器	底盤	4.9	0.5m以下の 外径 1.1	10YR5/2 角閃石・長石 に占比重 全高 4.9	10YR5/2 角閃石・長石 に占比重 色		横方向の ナツカケ		右上がり のハラタ ガ	左上がり のハラタ ガ			地盤表面にモミ江瓶	
081 第20回 第26回	遺20	陶土器	底盤	3.0	1~0.5mの 外径 1.1	10YR5/2 角閃石・長石 に占比重 ×くそり裏面 全高	10YR5/2 角閃石・長石 に占比重 色	ケゴリ推 測	横方向の ナツカケ		ナツカ ケ	ナツカ ケ			遺跡から移動下字に埋 上げ法	
082 第20回 第26回	遺20	陶土器	底盤 (10.7)	2~0.5mの 底盤 1.0m に占比重 下の角閃石・ 粘土を含む		10YR6/1 長石・1mm に占比重 色	10YR6/1 長石・1mm に占比重 色		ナツカ ケ		ナツカ ケ	ナツカ ケ			器底の埋滅痕なし	
083 第20回 第26回	遺20	石器	石器	長 5.1 幅 2.2 厚 0.6 重量 6.5											ナツカイト	
084 第20回 第26回	遺21	石器	石器	残存長 5.0 幅 2.3 厚 0.6											経年劣化	
085 第22回 第26回	落ち込み 付	石器	石器	長 5.9 幅 1.5 厚 0.5 重量 4.1											ナツカイト	
086 第22回	落ち込み 付	土器	土器	口径 11.0	3~0.5mの 底盤・長石 に占比重 角閃石・くさ り縫を含む	7.5YR5/1 長石・青緑 に占比重	ミコナデ ナツカケ	ミコナデ ナツカケ	ミコナデ ナツカケ	ミコナデ ナツカケ	ミコナデ ナツカケ	横方向の ナツカケ				

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

調査年 測定年	層位	出土遺物	出土層位	種類	番号	法量	着土	色調	特異					備考	
									口縁外面	内縁外面	底面外面	口縁内面	内縁内面	底面内面	
005									直縁丸う き						
006 測定20 回数27	土壤17	粘土質 粘	口径 30.0 高さ 34.8 底直径 35.2 底径 35.0	1~0.5mmの 角閃石・1~ 0.5mmの黒岩 ・長石を含む 色	10YR5/1 ヨコナダ	上部は黄 方向のハ ケメ	ナダ	ヨコナダ	前方の ハケメ						赤褐色下に地表の変化なし
007 測定21	土壤18	泥質砂 砂	口径 30.0 高さ 34.8	0.5mm以下の 長石を含む 色	10YR5/1 ヨコナダ	目輪へテ ケズリ		ヨコナダ	ヨコナダ						
008 測定22	土壤19	土質砂 砂	口径 30.0 高さ 34.8	1~0.5mmの 石英を含む 色	10YR5/1 ヨコナダ	花がけ のハケメ		直方の ハケメ							表面の豊富な 花崗岩
009 測定23 回数27	土壤20	粘土質 砂	口径 30.0 高さ 34.8	1~0.5mmの 角閃石・長石 ・漂石を含む 色	10YR5/1 ヨコナダ 黒鉄光			ヨコナダ ナダ							表面変色のため測定不可
100 測定24 回数27	土壤21	粘土質 砂	口径 30.0 高さ 34.8	2~0.5mmの 角閃石・長石 ・漂石を含む 色	10YR5/1 ヨコナダ			ナダ							表面変色のため測定不可
101 測定25 回数28	9層	土質砂 砂	口径 6.9 高さ 1.3	0.5mm以下の 長石・くさり 礁を含む 色	3YR7/6 ヨコナダ			不規則	ヨコナダ						
102 測定26 回数28	9層	土質砂 砂	口径 6.1 高さ 1.2	0.5mmの長石 ・くさり礁を 含む 色	3YR8/6 ヨコナダ			不規則	ヨコナダ						口縁部と底部の境目に粘土層のつなぎ あり
103 測定27 回数28	9層	土質砂 砂	口径 7.9 高さ 1.0	1mm以下の長 石・くさり礁を 含む 色	2.5YR8/6 ヨコナダ			不規則	ヨコナダ						
104 測定28 回数28	9層	土質砂 砂	口径 8.0 高さ 1.2	0.5mm以下の 長石・くさり 礁を含む 色	3YR8/6 ヨコナダ			不規則	ヨコナダ						上部と底部の境目に粘土層のつなぎ あり
105 測定29 回数28	9層	土質砂 砂	口径 8.4 高さ 1.5	0.5mm以下の 長石を含む 色	2.5YR8/6 ヨコナダ			不規則	ヨコナダ						
106 測定30 回数28	9層	土質砂 砂	口径 8.9 高さ 1.4	0.5mmの長石 ・漂石を含む 色	3YR8/6 ヨコナダ			不規則	ヨコナダ						

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

発見地 測量点	層位	出土遺物	地土層位	種類	量	地 土	色 調	特 長					著 者
								口縁外面	内縁外面	底面外周	底面内周	側面内周	
II7 測量点 II7B	5層		土壤部 Ⅲ	口徑 基底 高さ	8.1 1.8	0.5m以下の 灰岩・くさり 塊を含む	7.5YR8/4 浅黄褐色		不調査	ヨコナメ		ナゲ	
II8 測量点 II8B	9層		土壤部 Ⅲ	口径 基底 高さ	8.1 1.8	0.5m以下の 灰岩・くさり 塊・骨粉を含む	7.5YR8/4 浅黄褐色		不調査	ヨコナメ		ナゲ	口縁部の瓦みが美しい
II9 測量点 II9B	9層		土壤部 Ⅲ	口径 基底 高さ	9.5 1.8	1~0.5mの 灰岩・くさり 塊を含む	7.5YR8/4 浅黄褐色		不調査	ヨコナメ		ナゲ	口縁内側基部に平行する 瓦くばみあり
II10 測量点 II10B	9層		土壤部 Ⅲ	口径 基底 高さ	13.8 2.1	1~0.5mの くさり塊・灰 岩以下の岩 塊を含む	10YR8/3 浅黄褐色		不調査	ヨコナメ		ナゲ	
II11 測量点 II11B	9層		泥炭層 Ⅱ	口径 基底 高さ	13.0	1~0.5mの 灰岩・チャート ト・黒鉛を含む	5B6/1 青灰色	ヨコナメ		ヨコナメ	ヨコナメ		
II12 測量点 II12B	5層		泥炭層 Ⅱ	口径 基底 高さ	11.0	1~0.5mの 灰岩・黒鉛 を含む	ヨコナメ	細胞ヘラ ケズリ	ヨコナメ	ナゲ			
II13 測量点 II13B	9層		泥炭層 Ⅱ	口径 基底 高さ	11.0	0.5m以下の 貝殻を含む	5B6/1 青灰色		ヨコナメ		ヨコナメ		表面の迷いは右前から左向
II14 測量点 II14B	9層		泥炭層 Ⅱ	口径 基底 高さ	11.0	0.5m以下の 貝殻を含む	10YR8/3 赤色	磚造文法 網		ナゲ			
II15 測量点 II15B	近縁層		泥炭層 Ⅱ	口縫 基底 厚 高さ	11.0 1.0 1.0	1~0.5mの 灰岩・泥岩 を含む	2.5YR8/4 褐色	左上がり のバテス 後ヨコナ メ 円孔なし		ナゲ		泥炭層	
II16 測量点 II16B	9層		Ⅲ	地質層 長径 幅 厚 高さ	9.2 5.8 1.0 0.9	2~0.5mの 灰岩・雲母 チートを含 む	5Y4/3/1						瓦形層
II17 測量点 II17B	9層		土壤部 Ⅲ	北端 東端 西端 南端	6.0 1.0	1~0.5mの くさり塊・灰 岩白色	10YR8/2						土壤層

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告書 順序番号	層位	出土遺物	出土層位	種類	断面	延長	断面	土質	色調	特長					備考
										口縁部外観	内部外観	表面外観	口縁部内面	内部内面	
118	下層			土器	土器	内径 0.3 重量 4.2		石を含む							
119	下層			土器	土器	内径 1.15 重量 4.2		内径 0.35 重量 4.2	1-0.1mmの くつき砂・貝 石を含む	10YR 8/3					土質
120	下層			土器	土器	内径 2.15 重量 0.5									物質充実
121	下層			土器	土器	内径 6.7 厚 0.8									剖面
122	下層		近世層	石器	石器	内径 3.0 厚 0.5 重量 1.9									サスカイト 油墨が残っている
123	下層			土器	土器	内径 3.4 厚 0.5 重量 1.8									サスカイト
124	下層		近世層	石器	石器	内径 2.4 厚 0.4 重量 1.6									サスカイト
125	不明			石器	石器	内径 3.2 厚 1.0 重量 6.5									サスカイト

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

# 図 版



1. 近代以降の段に伴う抗列検出状況(西より)



2. 北壁東端部分断面

図版 2  
遺構



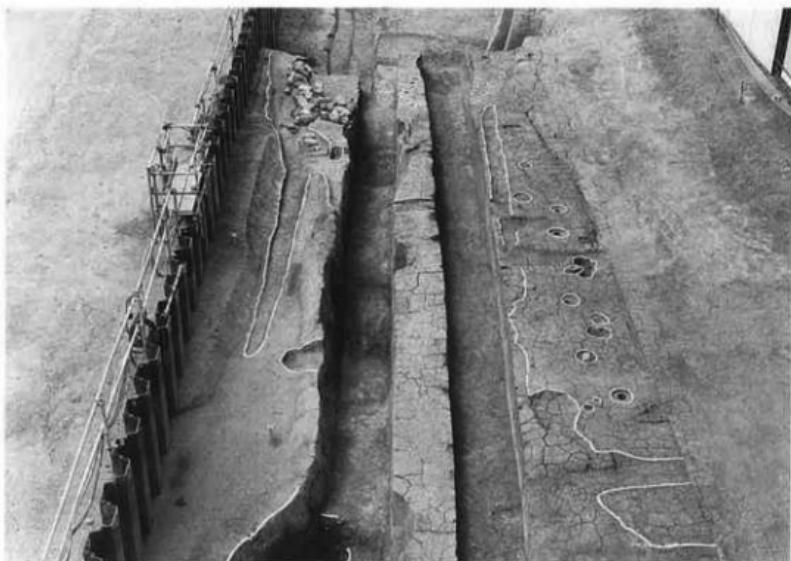
1. 近世遺構検出状況（南より）



2. 近世溝検出状況（西より）



1. 中世から古墳時代遺構検出状況（西より）

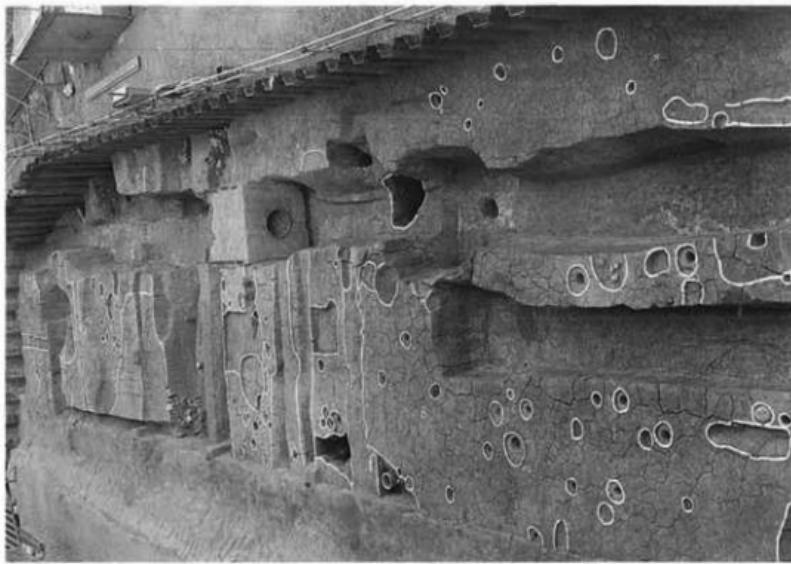


2. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区西より部分）

図版 4  
遺構



1. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区中央より部分）



2. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区東より部分）



1. 井戸 1 東西断面

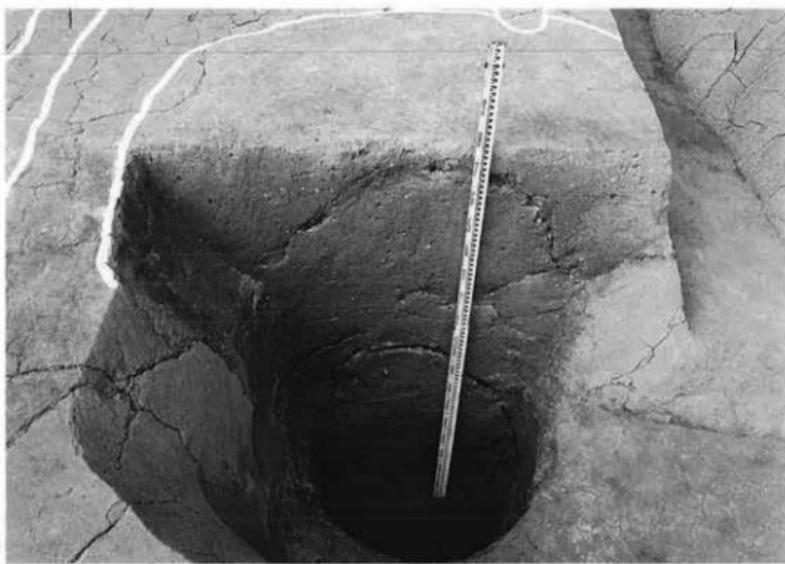


2. 井戸 1 検出状況

圖版 6 遺構



1. 井戸 4 遺物出土状況



2. 井戸 5 東西断面

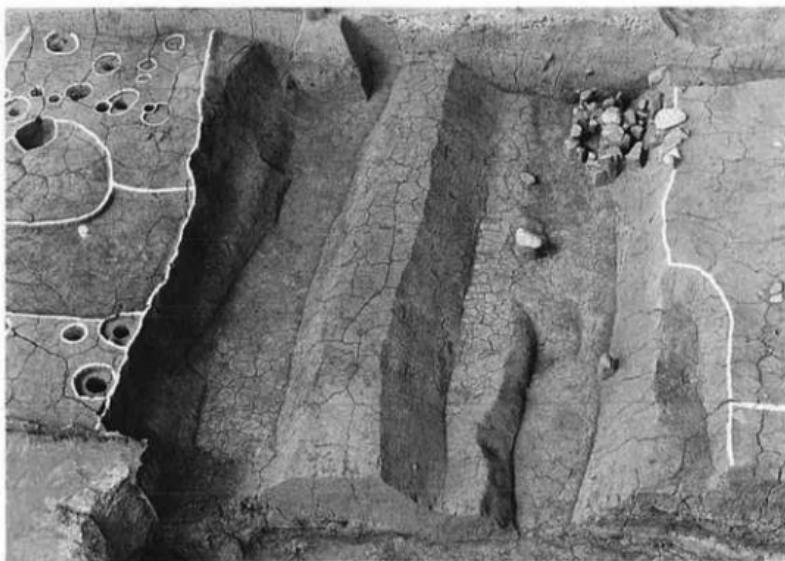


1. 井戸 5 立割状況(南東方向)

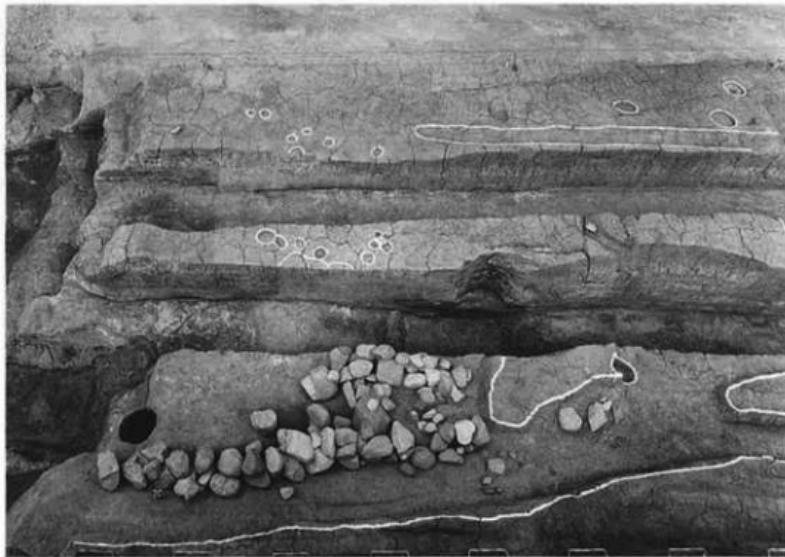


2. 井戸 2 立割状況(東西方向)

図版 8 遺構



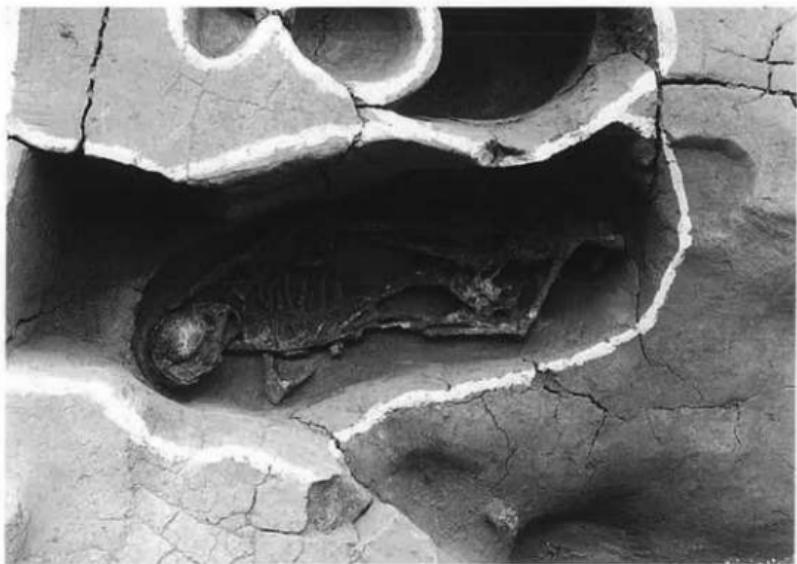
1. 溝13検出状況(南より)



2. 土壠1検出状況(南より)

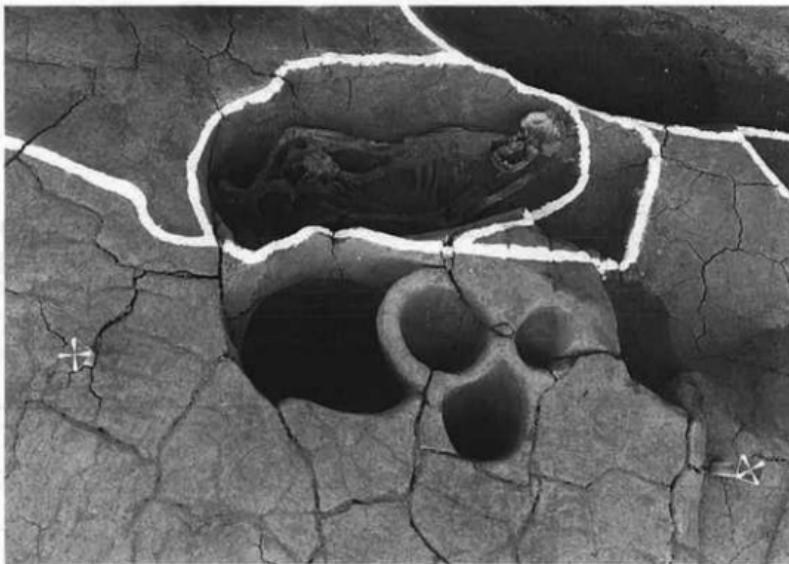


1. 土塚墓 1・井戸 6・井戸 7 挿出状況(南より)



2. 土塚墓 1 人骨出土状況

圖版 10  
遺構



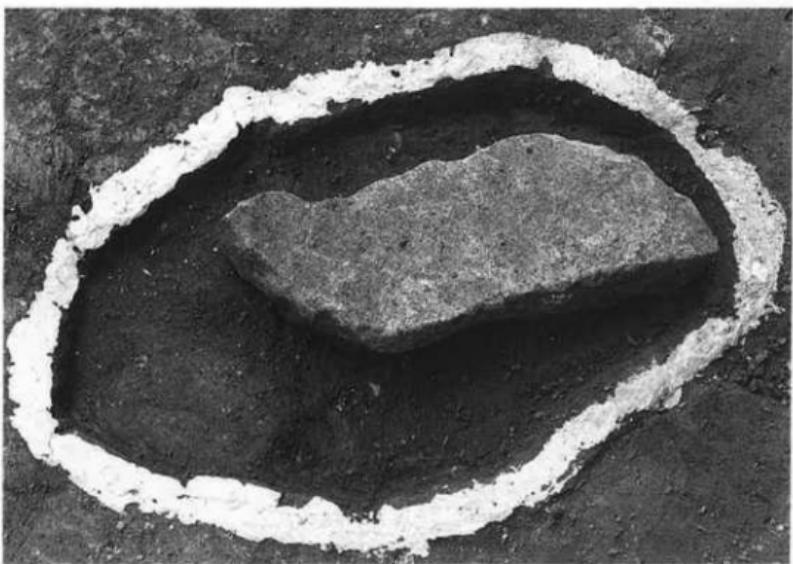
1. 土塘墓 1 人骨出土狀況



2. 土塘墓 1 人骨出土狀況



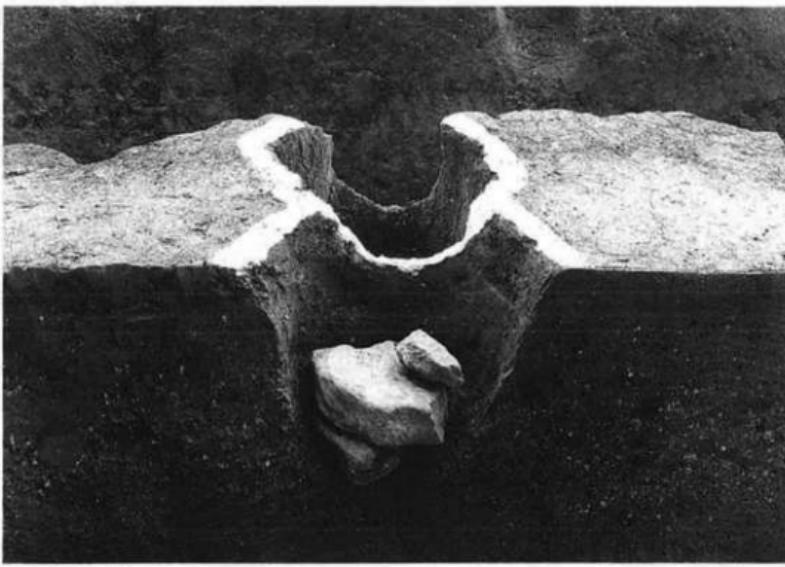
1. pit61根石檢出狀況



2. pit26根石檢出狀況



1. pit69根石檢出狀況



2. pit69立割狀況



1. 弥生時代遺構検出状況（西より）



2. 溝20・溝21検出状況（南より）



1. 清20・溝21検出状況(南より)



2. 溝21検出状況(南より)



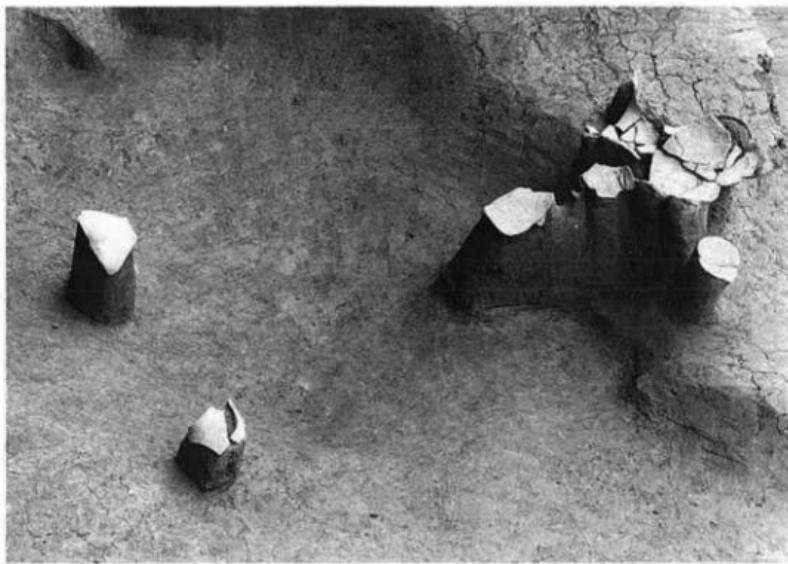
1. 溝20検出状況（南より）



2. 溝20東西断面



1. 落ち込み 1 検出状況（南より）



2. 落ち込み 1 土器出土状況

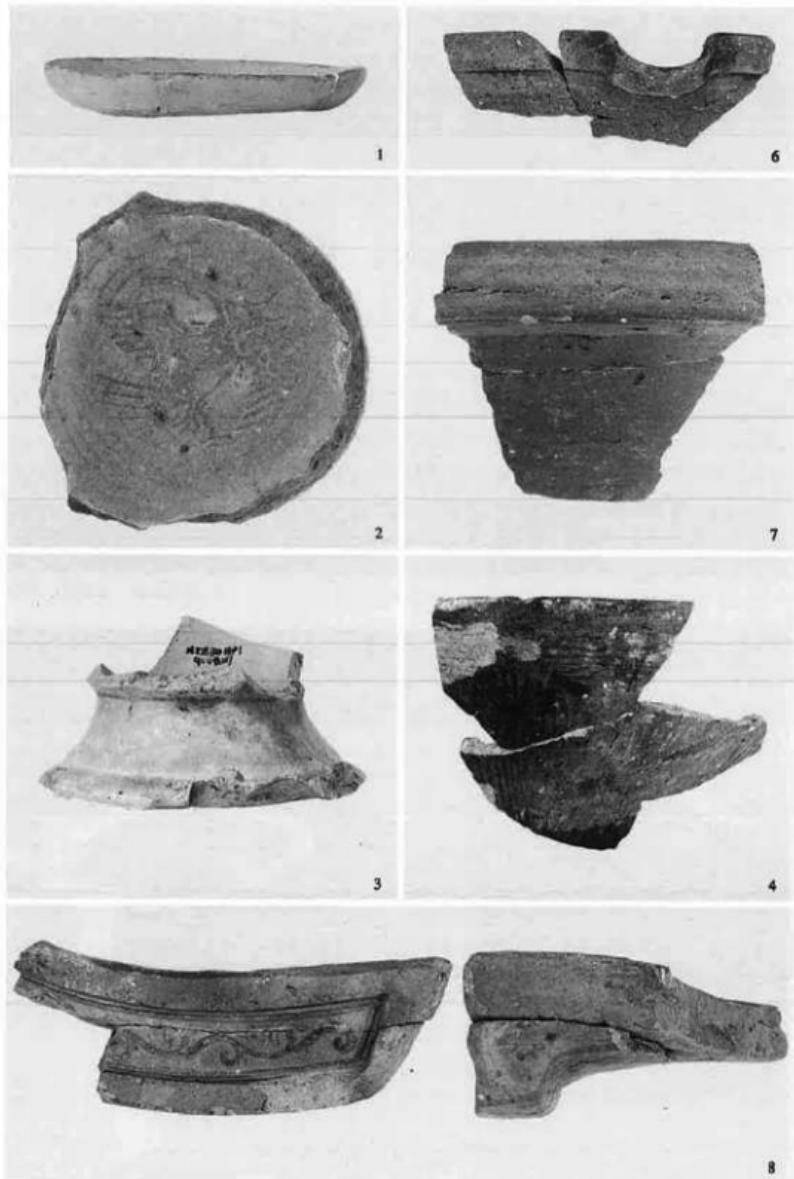


1. 落ち込み1土器出土状況



2. 土壙17土器出土状況

図版 18 遺物 井戸 1 出土遺物



圖版 19 遺物 井戸 1 出土遺物

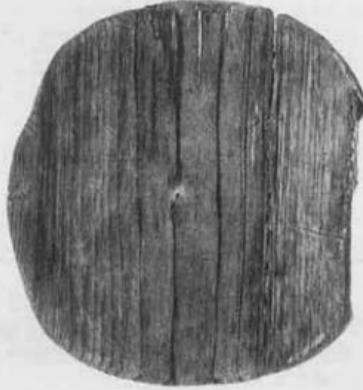
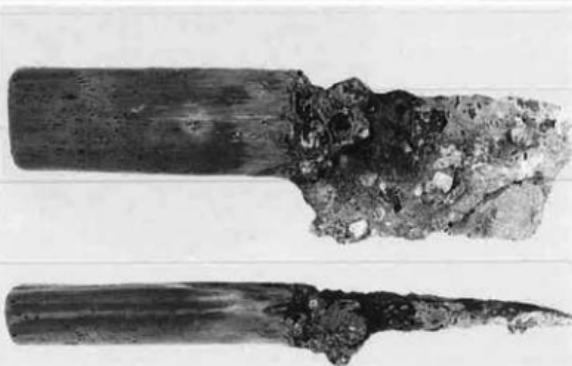


12



13

図版20 遺物 井戸1出土遺物





17



23



18



25



19



20

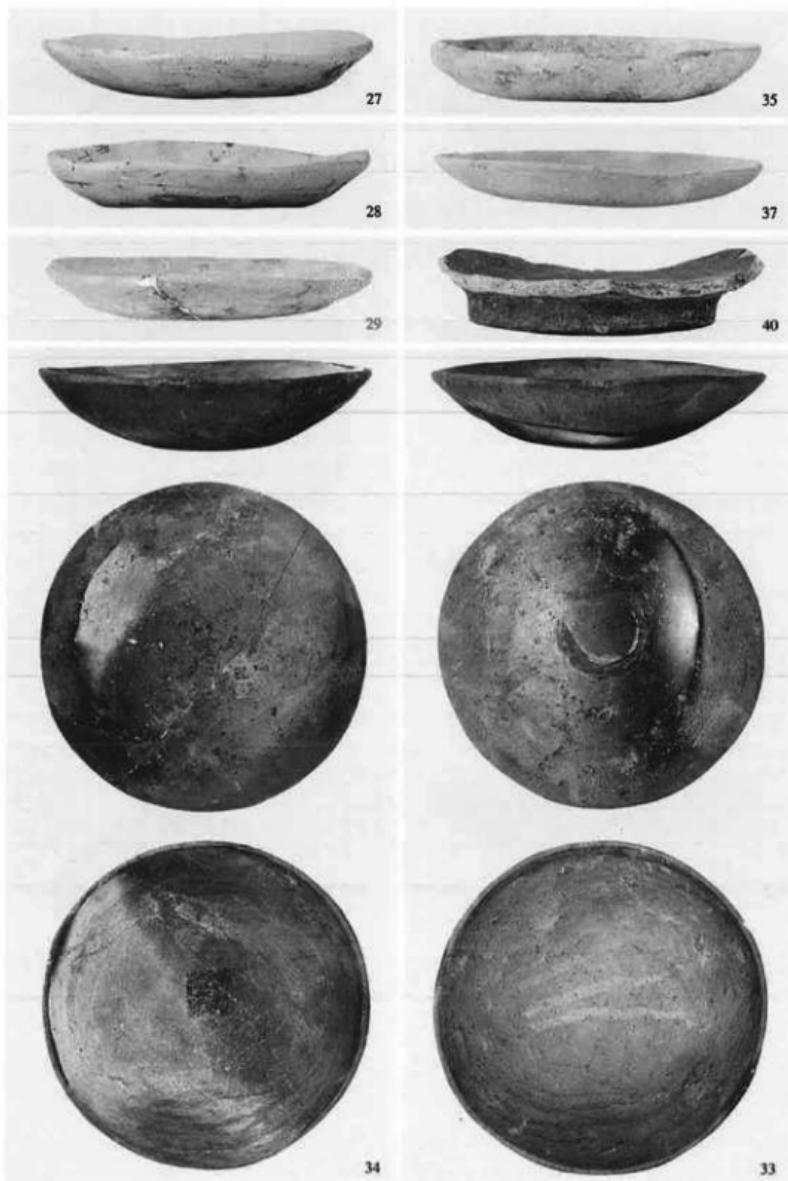


21

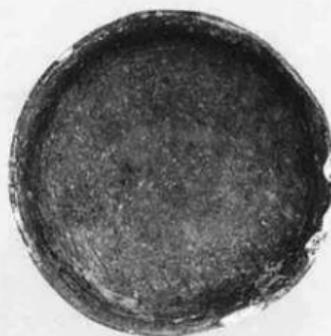


26

圖版22 遺物 井戸3・井戸6・井戸7・土壙墓1出土遺物



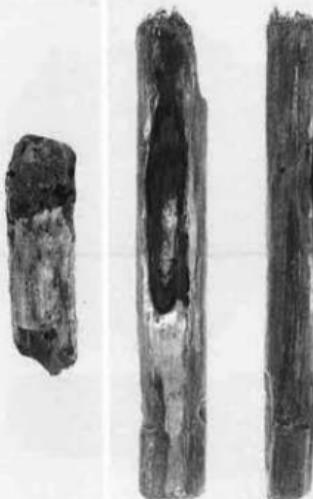
圖版 23 遺物 井戸 5・井戸 7・土壤 1 出土遺物



43



45



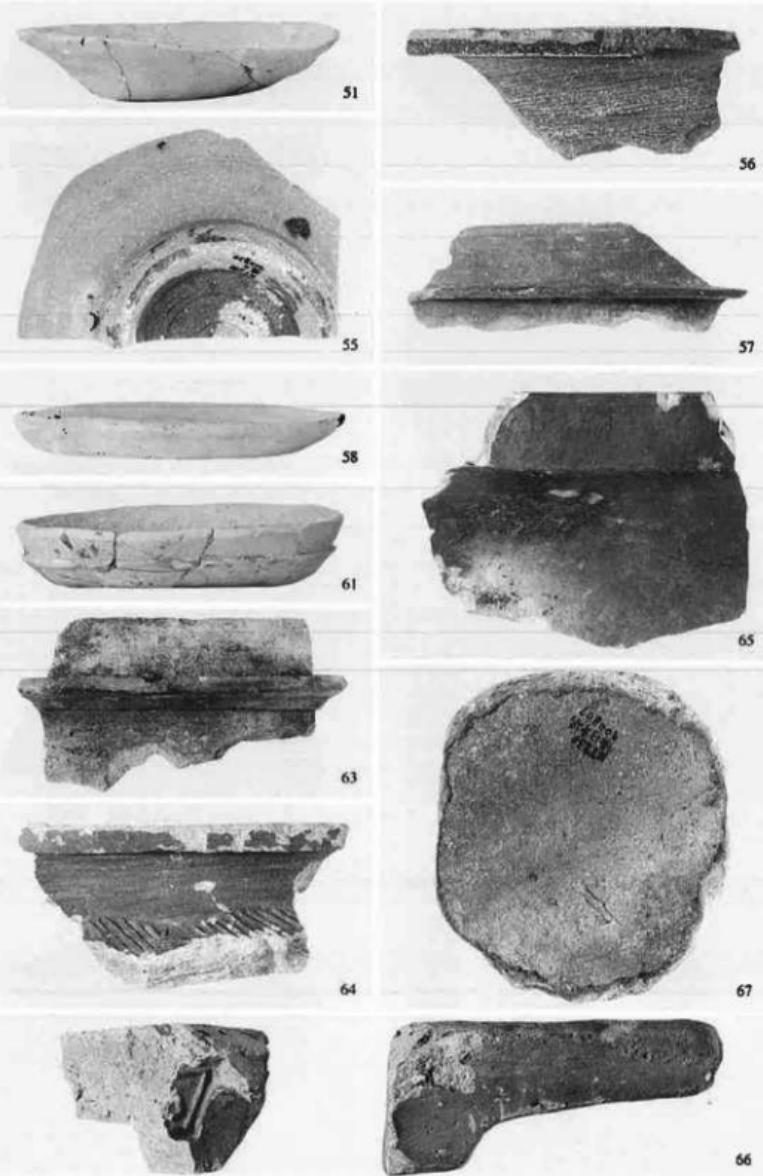
46

47



49

圖版 24  
造物 溝 1・溝 6・溝 13 出土遺物



pit  
49 ·  
pit  
51 ·  
pit  
72 ·  
pit  
83 ·  
pit  
125  
出土遺物



68



73



69



74



70



74



78



74

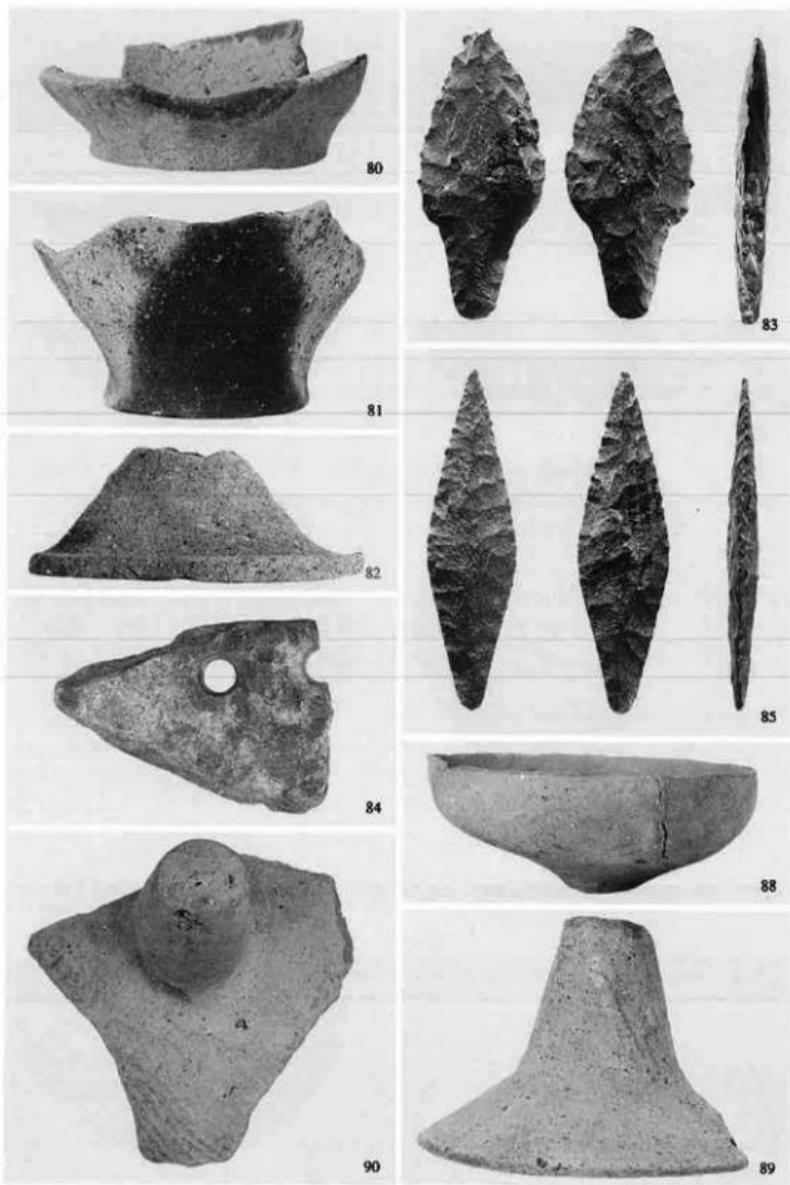


77



79

図版26 遺物 溝20・溝21・落ち込み1出土遺物





93



99



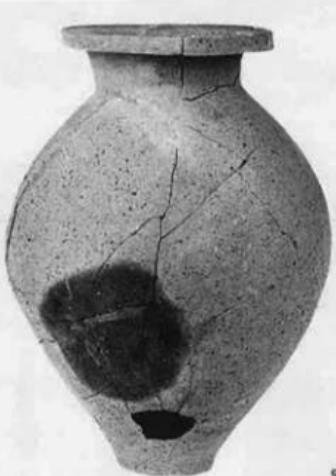
94



92

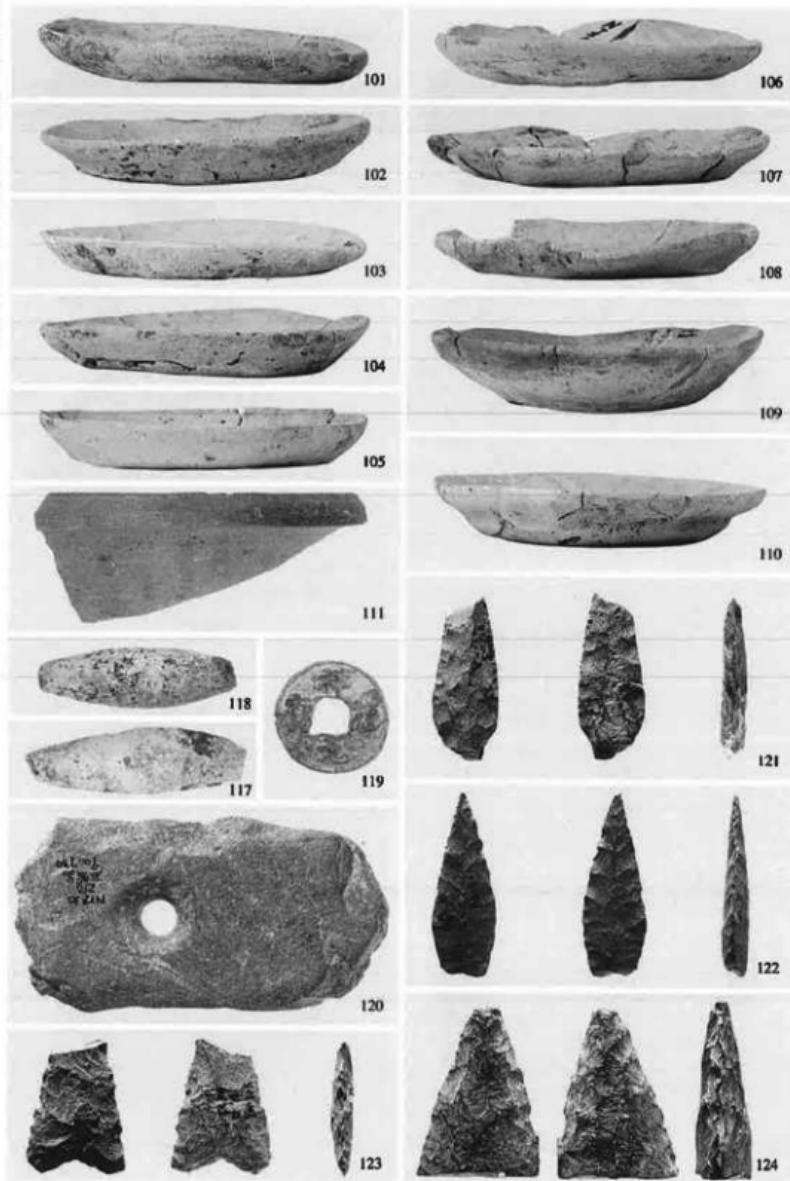


95



96

図版 28  
遺物 近世溝・第9層出土遺物



圖版 29 遺物 桐種顕微鏡写真



図版30 遺物 植種園微鏡写真



西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告

発行年月日 1995年3月3日

発行者 財団法人 東大阪市文化財協会

印刷所 (株)近畿印刷センター

0729-72-5918(代)